

議 事

(1) 岡山県スポーツ推進計画の進捗状況（2021 年度実績）について

- ア 評価方法、基本施策別の評価結果 P 1
- イ 数値目標の進捗状況 P 3

(2) 第 2 次岡山県スポーツ推進計画の策定（骨子案）について

- ア 第 2 次岡山県スポーツ推進計画 骨子案 P 6
- イ 岡山県スポーツ推進計画の項目比較表 別紙

(3) 第 2 次岡山県スポーツ推進計画の策定スケジュールについて

. P13

参考資料

- 岡山県スポーツ推進計画（改訂版）2021 年度施策評価シート
- 第 3 期スポーツ基本計画（概要）
- スポーツ基本計画の項目比較表

(1) 岡山県スポーツ推進計画の進捗状況（2021 年度実績）について

ア 評価方法、基本施策別の評価結果

岡山県スポーツ推進計画に基づいて実施する施策が、施策目標に対してどれほど達成できているか判断するため、5段階で評価したものです。

【岡山県スポーツ推進計画】

計画期間は、平成 25（2013）から令和 4（2022）年度までの 10 年間ですが、中間年度に見直しを行いました。

平成 30（2018）年度から、改訂後の計画に基づいて施策を実施しています。

1 評価方法

(1) 評価指標

5 点	目標を大きく上回り、著しく高い成果が現れている
4 点	目標を上回っており、具体的成果が現れている
3 点	概ね目標を達成しており、具体的成果が現れている
2 点	目標に達しておらず、関連する所管事業の改善が必要である
1 点	目標を大きく下回り、関連する所管事業の根本的な見直しが必要である

(2) 総合評価

関係各課の評価の平均値を出し、小数点第 1 位まで数値化した。

2 基本施策別の評価結果

別添のとおり

3 総括

- ・昨年度に引き続き、スポーツイベントや各種大会、研修が中止となるなど、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、ほとんどの項目で評価値は、横ばいか下がる結果となった。
- ・基本施策Ⅲ「スポーツを通じた活力があり絆の強い地域社会の実現」においては、東京オリンピック・パラリンピックを通じて県民のスポーツ熱を高めるため、新型コロナウイルス感染症予防対策徹底のもと、キャンプ誘致や聖火リレーに係るイベントを実施するとともに、スポーツへのモチベーションを維持するため、トップクラブチームのホームゲームに県民を無料招待する取組や小学生を対象としたスポーツ教室の実施などにより、評価を上げることができた。

基本施策Ⅰ ライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進

項 目	総合評価	前年比
1 幼児期からの運動・スポーツ活動の基盤づくりの推進	3.0 (3.0)	→
2 青少年期の運動・スポーツ活動の推進	3.0 (3.0)	→
3 成年期から高齢期までライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進	2.6 (2.6)	→
4 学校における体育・スポーツ活動の充実		
(1) 体育授業の充実・改善	3.0 (3.0)	→
(2) 子どもの体力向上への取組	2.0 (2.0)	→
(3) 運動部活動の改善・充実	3.0 (3.0)	→
(4) 学校体育関係団体の活動支援	3.0 (3.0)	→
5 障害のある人の運動・スポーツ活動の推進		
(1) 障害者スポーツへの理解と参加機会の確保	2.7 (2.7)	→
(2) 障害者スポーツの指導者やボランティア養成及び資質の向上	2.0 (2.0)	→
6 地域と連携した運動・スポーツ活動の推進	3.0 (3.0)	→

基本施策Ⅱ アスリートの育成と持続可能な指導・支援システムの構築

項 目	総合評価	前年比
1 アスリートの育成・強化	3.0 (3.0)	→
2 次世代アスリートの発掘・育成	3.0 (3.0)	→
3 持続可能な一貫指導・支援システムの構築	3.0 (3.0)	→
4 障害者アスリートの育成と支援体制の構築	2.0 (2.0)	→
5 クリーンでフェアなスポーツの推進によるスポーツの価値の向上	2.0 (3.0)	↓

基本施策Ⅲ スポーツを通じた活力があり絆の強い地域社会の実現

項 目	総合評価	前年比
1 スポーツ参加人口の拡大	2.7 (2.3)	↑
2 スポーツを通じた地域活性化	2.0 (2.0)	→
3 東京オリンピック・パラリンピック等の開催を契機とした地域活性化	3.3 (2.7)	↑
4 トップクラブチームを核とした地域活性化	2.0 (2.0)	→

基本施策Ⅳ スポーツ環境の整備

項 目	総合評価	前年比
1 指導者・ボランティアなど多様な人材の育成、活躍の場	2.5 (2.5)	→
2 スポーツ施設の機能の充実と活用の促進	2.3 (2.3)	→
3 情報発信と表彰制度	3.0 (3.0)	→

※総合評価の（ ）内は前年度の評価数字である。

イ 数値目標の進捗状況

岡山県スポーツ推進計画（平成 30（2018）年 3 月改訂）は、計画期間を平成 30（2018）年度から令和 4（2022）年度までの 5 年間とし、4 つの基本施策 17 項目の数値目標を設定している。

【基本施策 I ライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進】

項 目	基準値 平成 28 2016	平成 30 2018	令和元 2019	令和 2 2020	直近 令和 3 2021	目標値 令和 4 2022
成人男女の 1 週間に 1 日以上運動・スポ ーツをする割合	49.1%	50.4%	48.5%	59.5%	10 月 公表 予定	52.0%
成人の 1 日の歩数 ※ 5 年に 1 回の調査						
【20～64 歳】 男性	8,068 歩	—	—	—	—	9,000 歩
女性	6,520 歩	—	—	—	—	8,500 歩
【65 歳以上】 男性	5,502 歩	—	—	—	—	7,000 歩
女性	4,859 歩	—	—	—	—	6,000 歩
新体力テストにおけ る総合評価 D 及び E の児童生徒の割合						
【小 5 男子】	27.7%	29.0%	31.7%	—	35.5%	25.0%
【小 5 女子】	23.3%	24.2%	26.0%	—	29.1%	21.0%
【中 2 男子】	24.2%	26.7%	28.8%	—	31.5%	21.8%
【中 2 女子】	11.2%	11.8%	12.1%	—	15.4%	10.0%
1 週間の総運動時間 数 60 分未満の児童 生徒数の割合						
【小 5 男子】	5.7%	7.1%	7.2%	—	8.6%	5.0%
【小 5 女子】	10.5%	12.5%	11.6%	—	14.7%	8.5%
【中 2 男子】	7.1%	6.3%	7.0%	—	7.4%	5.0%
【中 2 女子】	20.7%	20.6%	19.3%	—	17.7%	18.2%
障害者スポーツ・レ クリエーション教室 参加者数	年間 1,105 人	年間 680 人	年間 744 人	年間 —	年間 297 人	年間 1,200 人

「障がい者スポーツ指導員」養成人数 ※基準値は H24(2012)～ H28(2016)年度の平均	年間 23 人	年間 16 人	年間 12 人	年間 —	年間 21 人	年間 30 人
P D C A サイクルに より運営の改善等を 図る総合型地域スポ ーツクラブの数	11 クラブ	14 クラブ	13 クラブ	13 クラブ	15 クラブ	30 クラブ

【基本施策Ⅱ アスリートの育成と持続可能な指導・支援システムの構築】

項 目	基準値 平成 28 2016	平成 30 2018	令和元 2019	令和 2 2020	直近 令和 3 2021	目標値 令和 4 2022
国民体育大会におけ る天皇杯順位	16 位 ※H29 年	11 位	12 位	—	—	10 位台
全国高等学校総合体 育大会の入賞者数	84	48	68	—	57	60 台

【基本施策Ⅲ スポーツを通じた活力があり絆の強い地域社会の実現】

項 目	基準値 平成 28 2016	平成 30 2018	令和元 2019	令和 2 2020	直近 令和 3 2021	目標値 令和 4 2022
「普段の生活の中で芸 術・文化、スポーツ等を 実践したり、観て楽しめ る地域になっている」と 感じている人の割合	30.6% ※H29 年度	28.8%	40.4%	28.0%	26.2%	38.0%
地域スポーツコミッ ションの数	2 団体 ※H29 年度	4 団体	4 団体	4 団体	4 団体	6 団体
ナショナルチームキ ャンプ等誘致件数 ※目標値は H30(2018)～ R4(2022)年度の計	5 件	13 件	12 件	2 件	9 件	25 件

東京大会に向けた文化プログラムの件数 ※目標値は H29(2017)～R3(2021)年度の計	—	618 件	981 件	1,173 件	1,246 件	2,000 件
トップクラブチームのホームゲームにおける観客動員数	シーズン 248 千人	シーズン 211 千人	シーズン 243 千人	シーズン 81 千人	シーズン 111 千人	シーズン 273 千人

【基本施策Ⅳ スポーツ環境の整備】

項 目	基準値 平成 28 2016	平成 30 2018	令和元 2019	令和 2 2020	直近 令和 3 2021	目標値 令和 4 2022
県営スポーツ施設利用者数	1,990 千人	1,735 千人	1,623 千人	775 千人	492 千人	1,930 千人
学校体育施設の開放率 【屋外運動場】 【体育館】 【武道場】	78% 89% 59% ※H27 年度	78% 90% 59% ※H29 年度	75% 89% 61% ※H30 年度	— — — ※R 元年度	R5 年 4 月頃 公表予定 ※R 2 年度	85% 91% 60% ※R 3 年度
スポーツ情報ウェブサイト「おかやまスポーツナビ」のアクセス数	21,689 件	20,534 件	26,531 件	19,872 件	45,474 件	40,000 件

(2) 第2次岡山県スポーツ推進計画の策定（骨子案）について

ア 第2次岡山県スポーツ推進計画 骨子案

1 第2次岡山県スポーツ推進計画策定の趣旨

スポーツは、世界共通の人類の文化であり、すべての県民がスポーツを通じて明るい笑顔で暮らす「生き生き岡山」実現のためには、性別や年齢、障害の有無等に関わらず、誰もが「スポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、スポーツを支える」ことができる取組が必要です。

本県では、平成16(2004)年に「岡山県スポーツ振興基本計画」を、平成24(2012)年に「岡山県スポーツ推進条例」の制定及び「スポーツ立県おかやま」宣言を行うとともに、平成25(2013)年に「岡山県スポーツ推進計画」を策定(平成30(2018)年改訂)し、各種施策を推進してきました。

この間、人口減少・長寿社会の到来や、様々な技術革新の急速な広がり等によるライフスタイルの変化、新型コロナウイルス感染症による影響からの回復、東京オリンピック・パラリンピック(以下、「東京大会」という)を契機とした「スポーツ・レガシー」の継承・発展など、スポーツを取り巻く環境は大きく変化し、令和4(2022)年に国の「第3期スポーツ基本計画」が策定されました。

こうした状況を踏まえ、スポーツを通じた人づくり、健康づくり、地域づくりの輪が広がり、夢、勇気、感動を創出できる「スポーツ立県おかやま」の実現に向けて、各種施策をより一層、総合的かつ計画的に推進するため、「第2次岡山県スポーツ推進計画」を策定します。

2 構成

第1章「計画の概要」、第2章「スポーツの現状」、第3章「岡山県が目指す姿」、第4章「基本施策」、第5章「計画の進め方」で構成します。

3 記述の方向性

<第1章 計画の概要>

1 策定の趣旨

策定の趣旨について記述します。

2 計画の位置付け

スポーツ基本法第10条に定める「地方スポーツ推進計画」であるとともに、岡山県スポーツ推進条例第7条に定める「県スポーツの推進に関する施策を総合的かつ計画的に実施するための計画」です。

3 計画の期間

令和5(2023)年度から令和9(2027)年度までの5年間とします。

＜第2章 スポーツの現状＞

1 スポーツを取り巻く社会の変化

(1) 人口減少・長寿社会の到来

少子化の進行、高齢化率の上昇、高齢者人口も減少する人口減社会の到来等について記述します。

(2) ライフスタイルの変化

様々な技術革新の急速な広がりによる、働き方や生活様式等のライフスタイルの変化について記述します。

(3) 新型コロナウイルス感染症による影響からの回復

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により減少したスポーツを楽しむ機会の回復等について記述します。

(4) 東京大会「スポーツ・レガシー」の継承・発展

東京大会を契機とした共生社会の実現、多様な主体によるスポーツ参画の促進、県民のスポーツへの関心の高まりを生かした地域活性化等について記述します。

2 スポーツの意義

スポーツ基本法の前文に定めるスポーツの意義、新型コロナウイルス感染症の影響と東京大会の開催を通じて再認識されたスポーツの価値等について記述します。

3 スポーツ推進計画（改訂版）の進捗状況

4つの基本施策17項目の数値目標の進捗状況について記述します。

＜第3章 岡山県が目指す姿＞

1 目標

『「スポーツ立県おかやま」の実現』とします（サブタイトル検討中）。

2 施策体系

次のとおりとします。

基本施策Ⅰ 「多様な主体におけるライフステージに応じた運動・スポーツ活動の機会創出」

～多様な主体が参画できる生涯スポーツの推進によるスポーツ人口の拡大と生きがい・元気づくりの創出～

基本施策Ⅱ 「アスリートの育成と持続可能な指導・支援システムの構築」

～競技スポーツの推進によるチーム岡山競技力の向上～

基本施策Ⅲ 「スポーツを通じたともに生き豊かさが実感できる地域の創造」

～東京オリンピック・パラリンピック「スポーツ・レガシー」の継承及び共生社会の実現と地域の活性化～

基本施策Ⅳ 「スポーツ環境の整備」

～「ハード」「ソフト」「人材」の充実～

3 数値目標

計画期間中に達成しようとする数値目標を設定します。

<第4章 基本施策>

別紙体系図のとおり

<第5章 計画の進め方>

1 県民スポーツ総参加に向けて

「スポーツ立県おかやま」の実現に向けて、県民に期待される取組、県・市町村・学校・スポーツ団体等の役割について記述します。

2 進捗状況の管理

計画の進行管理について記述します。

基本施策Ⅰ 多様な主体におけるライフステージに応じた運動・スポーツ活動の機会創出

～多様な主体が参画できる生涯スポーツの推進によるスポーツ人口の拡大と生きがい・元気づくりの創出～

(具体的施策の方向性)

(今後の施策展開) ※「●」は新規または拡充

統合

1 子ども・若者の運動・スポーツ活動の推進

- 幼児期からの運動習慣形成支援
- 総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団や民間スポーツクラブ等との連携
- トップクラブチームを活用した取組
- スポーツ少年団活動の活性化
- 休日の部活動を中学校から地域に円滑に移行するための取組

統合

改題

2 働く世代・子育て世代、高齢者の運動・スポーツ活動の推進

- スポーツを通じた健康増進（「第2次健康おかやま21」との連携）
- おかやまマラソンを通じた元気づくり
- 子育て世代が参加しやすいスポーツ環境づくり
- スポーツを通じた高齢者の健康づくり

3 学校における体育・スポーツ活動の充実

(1) 子どもの体力向上に向けた取組

統合

- 体育授業の充実・改善と教員の指導力の向上
- 新体力テストの結果を活用した体力向上の取組の推進
- 運動の習慣化を図る取組の推進
- オリ・パラ教育の知見・経験等を生かした教育活動推進
- 学校体育関係団体における各種活動への支援

(2) 運動部活動改革の推進

新規

- 「運動部活動の在り方に関する方針」に基づく適切な運動部活動の推進
- 子どもにとって適切なスポーツ環境の確保に向けた取組の推進
- 体罰をはじめ不適切な指導等の根絶

4 障害のある人の運動・スポーツ活動の推進

(1) 障害者スポーツへの理解と参加機会の確保

- 障害者スポーツの理解促進
- 県障害者スポーツ大会の開催
- 障害者スポーツ教室の開催

(2) 障害者スポーツの指導者の養成やボランティアの参加推進

- 障害者スポーツの指導者の養成
- 障害者スポーツボランティアの参加推進

基本施策Ⅱ アスリートの育成と持続可能な指導・支援システムの構築

～競技スポーツの推進によるチーム岡山競技力の向上～

(具体的施策の方向性)

(今後の施策展開) ※「●」は新規または拡充

1 アスリートの育成・強化

- トップアスリートの強化
- トップを目指すアスリートの強化
- 国民体育大会に向けた強化
- 第79会国民スポーツ大会冬季大会に向けた強化

統合

2 アスリート育成パスウェイの構築

- アスリートの発掘・育成
- 学校と地域の連携による競技力向上への取組
- アスリートのキャリア形成支援
- アスリートの県内就職促進

新規

3 指導者の育成・資質向上

- 指導者の育成とその資質の向上
- スポーツ指導における暴力・虐待等の根絶

上記1～3 障害者アスリートに関する事項も記載のうえ、「再掲」とする。

4 障害者アスリートの育成と支援体制の構築

- 障害者アスリートの育成・強化【再掲】
- 障害者アスリート育成パスウェイの構築【再掲】
- 障害者スポーツ指導者の育成・資質向上【再掲】

新規

5 アスリートの安全・安心の確保

- スポーツ事故・スポーツ障害の防止
- スポーツ医・科学の取組支援
- スポーツ指導における暴力・虐待等の根絶【再掲】
- アスリートに対する誹謗中傷の防止
- スポーツ団体のガバナンス強化・コンプライアンス徹底

基本施策Ⅲ スポーツを通じたともに生き豊かさが実感できる地域の創造

～東京オリンピック・パラリンピック「スポーツ・レガシー」の継承及び共生社会の実現と地域の活性化～

(具体的施策の方向性)

(今後の施策展開) ※「●」は新規または拡充

移動・改題

1 地域と連携した運動・スポーツ活動の推進による共生社会の実現

- 総合型地域スポーツクラブの創設や充実への支援
- 広域スポーツセンターの機能充実
- スポーツ・健康まちづくりの推進

改題

2 大規模スポーツイベント、合宿等を通じた地域活性化

- 大規模なスポーツ大会等の誘致、開催支援
- おかやまマラソンによる交流促進と地域経済の活性化
- スポーツツーリズムの推進

3 トップクラブチームを核とした地域活性化

- トップクラブチームの応援機運の醸成
- トップクラブチーム等との連携による交流促進と地域経済の活性化
- トップクラブチームを活用した取組【再掲】
- 環境の変化に応じた支援

新規

4 第79回国民スポーツ大会冬季大会の開催

基本施策Ⅳ スポーツ環境の整備

～「ハード」「ソフト」「人材」の充実～

(具体的施策の方向性)

(今後の施策展開) ※「●」は新規または拡充

改題

1 指導者・ボランティアなど多様な人材の育成、活躍の場の創出

- 指導者の育成とその資質の向上【再掲】
- 障害者スポーツ指導者の育成・資質向上【再掲】
- スポーツ推進委員など地域でスポーツを支える人材への支援
- 障害者スポーツの指導者の養成【再掲】
- スポーツ施策担当者の専門性向上
- 広域スポーツセンターの機能充実【再掲】
- 大規模スポーツ大会等のボランティア活動への参加促進
- 障害者スポーツボランティアの参加推進【再掲】

2 スポーツ施設の機能の充実と活用の促進

- ユニバーサルデザインに配慮した県営スポーツ施設の計画的な改修等
- スポーツ施設の安全確保の推進
- 県営スポーツ施設の稼働率の向上
- 施設のユニバーサルデザインによる誰もが使いやすい環境づくり
- 学校施設の開放
- オープンスペース等の活用
- 競技用器具の充実

新規

3 スポーツ界におけるDXの推進

- 多様な主体の平等なスポーツの実施を可能にするデジタル技術の活用
- デジタル技術を活用したアスリートの支援
- スポーツに係るデータの集約・解析等を実施するための体制づくり
- 県営スポーツ施設の稼働率の向上【再掲】

改題

4 誰もがスポーツに気軽に親しめる情報発信

- 誰もがスポーツに気軽に親しめる情報発信の充実
- 表彰制度の充実
- スポーツの価値の啓発

(3) 第2次岡山県スポーツ推進計画の策定スケジュールについて

年 月 日	概 要
R 4 年 7 月 7 日	令和4年度 第1回スポーツ推進審議会 県から審議会への諮問 骨子案の検討
1 0 月中旬	令和4年度 第2回スポーツ推進審議会 素案の検討
1 1 月中旬	パブリックコメント開始（概ね1か月）
1 2 月中旬	パブリックコメント締切
R 5 年 2 月初旬	令和4年度 第3回スポーツ推進審議会 審議会から県への答申
3 月	計画の策定、公表

※上記は予定であり、変更する可能性があります。

イ 岡山県スポーツ推進計画の項目比較表

岡山県スポーツ推進計画（改訂版）
H30(2018)～H34(2022)第2次岡山県スポーツ推進計画
R5(2023)～R9(2027)

目標

「スポーツ立県おかやま」の実現
「する」「みる」「ささえる」すべての県民がスポーツで笑顔輝く生き
活き岡山

目標

「スポーツ立県おかやま」の実現
キャッチフレーズ：要検討

基本施策Ⅰ

ライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進

＜生涯スポーツの推進（幼児期から高齢期までライフステージに応じた
運動・スポーツ活動の推進）＞

- 1 幼児期からの運動・スポーツ活動の基盤づくりの推進
- 2 青少年期の運動・スポーツ活動の推進
- 3 成年期から高齢者までライフステージに応じた運動・スポーツ活
動の推進
- 4 学校における体育・スポーツ活動の充実
 - (1)体育授業の充実・改善
 - (2)子どもの体力向上への取組
 - (3)運動部活動の改善・充実
 - (4)学校体育関係団体の活動支援
- 5 障害のある人の運動・スポーツ活動の推進
 - (1)障害者スポーツへの理解と参加機会の確保
 - (2)障害者スポーツの指導者やボランティア養成及び資質の向上
- 6 地域と連携した運動・スポーツ活動の推進

基本施策Ⅰ

多様な主体におけるライフステージに応じた運動・スポーツ活動の機会
創出

＜多様な主体が参画できる生涯スポーツの推進によるスポーツ人口の拡
大と生きがい・元気づくりの創出＞

- 統 1 子ども・若者の運動・スポーツ活動の推進
- 統 2 働く世代・子育て世代、高齢者の運動・スポーツ活動の推進
改
- 3 学校における体育・スポーツ活動の充実
- 統 (1)子どもの体力向上に向けた取組
- 新 (2)運動部活動改革の推進
- 4 障害のある人の運動・スポーツ活動の推進
 - (1)障害者スポーツへの理解と参加機会の確保
 - 改 (2)障害者スポーツの指導者の養成やボランティアの参加推進

基本施策Ⅱ

アスリートの育成と持続可能な指導・支援システムの構築

＜競技スポーツの推進（チーム岡山競技力の向上）＞

- 1 アスリートの育成・強化
- 2 次世代アスリートの発掘・育成
- 3 持続可能な一貫指導・支援システムの構築
- 4 障害者アスリートの育成と支援体制の構築
- 5 クリーンでフェアなスポーツの推進によるスポーツの価値の向上

基本施策Ⅱ

アスリートの育成と持続可能な指導・支援システムの構築

＜競技スポーツの推進によるチーム岡山競技力の向上＞

- 1 アスリートの育成・強化
- 統 2 アスリート育成パスウェイの構築
- 新 3 指導者の育成・資質向上
- 4 障害者アスリートの育成と支援体制の構築
- 新 5 アスリートの安全・安心の確保

基本施策Ⅲ

スポーツを通じた活力があり絆の強い地域社会の実現

＜スポーツ参加人口の拡大と地域の活性化＞

- 1 スポーツ参加人口の拡大
- 2 スポーツを通じた地域活性化
- 3 東京オリンピック・パラリンピック等の開催を契機とした地域活
性化
- 4 トップクラブチームを核とした地域活性化

基本施策Ⅲ

スポーツを通じたともに生き豊かさが実感できる地域の創造

＜東京オリンピック・パラリンピック「スポーツ・レガシー」の継承及
び共生社会の実現と地域の活性化＞

- 移 1 地域と連携した運動・スポーツ活動の推進による共生社会の実現
- 改 2 大規模スポーツイベント、合宿等を通じた地域活性化
- 3 トップクラブチームを核とした地域活性化
- 新 4 第79回国民スポーツ大会冬季大会の開催

基本施策Ⅳ

スポーツ環境の整備

＜スポーツの基盤となる「人」「場」の環境整備＞

- 1 指導者・ボランティアなど多様な人材の育成、活躍の場
- 2 スポーツ施設の機能の充実と活用の促進
- 3 情報発信と表彰制度

基本施策Ⅳ

スポーツ環境の整備

＜「ハード」「ソフト」「人材」の充実＞

- 改 1 指導者・ボランティアなど多様な人材の育成、活躍の場の創出
- 2 スポーツ施設の機能の充実と活用の促進
- 新 3 スポーツ界におけるDXの推進
- 改 4 誰もがスポーツに気軽に親しめる情報発信

岡山県スポーツ推進計画（改訂版） 2021年度施策評価シート

1 評価施策名

基本施策	I ライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進		
施策の方向性	生涯スポーツの推進（幼児期から高齢期までライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進）		
施策名	1 幼児期からの運動・スポーツ活動の基盤づくりの推進	担当課室	保健福祉部子ども未来課 教育庁保健体育課 環境文化部スポーツ振興課

2 課室施策評価

(1) 推進計画における数値目標

数値目標	指標名	設定なし	計画策定時	
			中間見直し時	
	指標の説明		目標値	
			実績値	

(2) 成果及び課題

成果	・ 幼児の運動遊び、リズム遊び等を行うおかやま地域子育て支援拠点の認知度向上の取組や情報発信を行った。 ・ おかやま地域子育て支援拠点の従事者を対象とした研修を実施し、従事者の育成、質の向上を図った。 ・ 「乳児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム（ACP）」研修を受けた指導者を、保育園や幼稚園、乳児期を対象とした教室に派遣し、ACPを活用した取組の普及を図った。 ・ 国公立幼稚園・認定こども園に対し、スポーツ庁が主催する体育・保健体育指導力向上研修の研修内容を踏まえた研修会（3会場・計67名参加）を実施し、各園における運動遊びの更なる充実を図った。
課題	・ 従事者の更なる質の向上を図る必要がある。 ・ 「学校体育実技指導資料」をより有効に活用するため、運動遊びの研修会等を実施する必要がある。

3 各課における評価

番号	部課名	事務事業の実施内容、成果・課題及び総合評価				
1	子ども未来課	事業内容	・地域子育て支援拠点事業を実施する市町村への支援（子ども・子育て支援交付金の交付、事業実施への技術的助言等） ・地域子育て支援拠点事業に従事する者の育成、資質向上 ・地域子育て支援拠点事業のPR			
		成果・課題	評価	2018年度	3	
				2019年度	3	
				2020年度	3	
				2021年度	3	
				2022年度		
【成果】 ・実施市町村数：26市町村 ・子育て支援員研修修了者：95名 ・PR：岡山県ホームページによる紹介 【課題】 ・地域子育て支援拠点事業の認知度向上 ・さらなる従事者の育成及び資質向上						
2	保健体育課	事業内容	・運動遊び等の指導力向上につながる指導資料の作成			
		成果・課題	評価	2018年度	2	
				2019年度	3	
				2020年度	3	
				2021年度	3	
				2022年度		
【成果】 ・スポーツ庁主催の「体育・保健体育指導力向上研修」の「幼児の運動遊び部会」の研修内容を踏まえた研修会（3会場・計67名参加）を実施し、幼稚園教員等の指導力向上を図った。 【課題】 ・より効果的な「学校体育実技指導資料」の活用を目指し、研修会等を実施する必要がある。 ・運動の習慣化、体力の向上を図る取組である「みんなでチャレンジラング」への参加幼稚園数が伸び悩んでおり、また、令和元年度以降については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、幼稚園、こども園、保育園への周知が課題である。（参加園数 R3:3園、R2:4園、R1:6園、H30:11園、H29:12園、H28:13園）						

3	スポーツ振興課	事業内容	・乳児期における運動体験の充実のため、乳児期指導者を幼稚園やスポーツクラブへ、幼児や児童を対象とした教室に派遣し、「ココロを育てる運動遊びプログラム」を活用した取組の普及を図る。併せて保護者等への啓発活動を推進する。			
		成果・課題	【成果】 ・3回の研修会(参加者62人)に専門指導者を派遣。幼稚園児、小学生へ様々な運動遊びの指導を行い、幼児期からのスポーツ活動のきっかけ作りを図ることができた。 【課題】 ・コロナ禍での開催方法や活動内容の工夫、開催PRの強化が必要である。	評価	2018年度	3
					2019年度	3
					2020年度	3
					2021年度	3
					2022年度	

4 総合評価

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
総合評価	2.7	3.0	3.0	3.0	

岡山県スポーツ推進計画（改訂版） 2021年度施策評価シート

1 評価施策名

基本施策	I ライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進		
施策の方向性	生涯スポーツの推進（幼児期から高齢期までライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進）		
施策名	2 青少年期の運動・スポーツ活動の推進	担当課室	環境文化部スポーツ振興課

2 課室施策評価

(1) 推進計画における数値目標

数値目標	指標名	該当なし	計画策定時	
			中間見直し時	
	指標の説明		目標値	
			実績値	

(2) 成果及び課題

成果	・「県民応援デー」におけるキックターゲットや謎解きなどの企画や、県内5クラブのホームゲームにおける県民無料招待および小学生を対象としたスポーツ教室を実施し、青少年がスポーツ活動に取り組む機会の提供、意欲の向上に努めた。 ・トップクラブチーム等に所属する選手・指導者を学校等に派遣する「トップアスリート派遣事業」等を実施。青少年がアスリートと接する機会の提供、指導者の資質向上につながった。 ・岡山県スポーツ協会を通じ、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団等の活動を支援した。
課題	・スポーツにあまり関心のない青少年にどのようにコンタクトしていくか、方法等を工夫する必要がある。

3 各課における評価

番号	部課名	事務事業の実施内容、成果・課題及び総合評価				
1	スポーツ振興課	事業内容	・トップクラブチームのホームゲームにおける応援イベント「県民応援デー」等を実施し、青少年がスポーツ活動に取り組むきっかけづくりを提供する。 ・トップクラブチーム等に所属する選手・指導者を学校やスポーツ少年団等へ派遣する。 ・総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団等の活動を支援し、スポーツの裾野拡大や、指導者等の資質向上に取り組む。			
		成果・課題	【成果】 ・「県民応援デー」において、キックターゲットや謎解きなどの企画を実施し、青少年がスポーツ活動に取り組む機会の提供を行うとともに、意欲の向上に努めた。 ・県内5クラブのホームゲームにおいて、合計21試合、約6,000人の県民無料招待を実施し、再び県民がスポーツ観戦を楽しむ機会を提供した。 ・約200名の小学生等を対象としたトップチームによるスポーツ教室を開催し、青少年にトップレベルに触れる機会を提供し、スポーツに取り組むきっかけづくりを行った。 ・トップクラブチーム等に所属する選手・指導者を学校等に派遣する「トップアスリート派遣事業」等を実施。青少年がアスリートと接する機会の提供、指導者の資質向上につながった。（R3年度190回派遣、R2年度222回派遣、R元年度295回派遣） ・岡山県スポーツ協会を通じ、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団等を対象とし研修会等を実施し、活動の充実を支援した。 【課題】 ・スポーツにあまり関心のない青少年にどのようにコンタクトしていくか、方法等を工夫する必要がある。	評価	2018年度	3
					2019年度	3
					2020年度	3
					2021年度	3
					2022年度	

4 総合評価

総合評価	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	3.0	3.0	3.0	3.0	

岡山県スポーツ推進計画（改訂版） 2021年度施策評価シート

1 評価施策名

基本施策	I ライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進		
施策の方向性	生涯スポーツの推進（幼児期から高齢期までライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進）		
施策名	3 成年期から高齢期までライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進	担当課室	環境文化部スポーツ振興課 おかやまマラソン事務局 保健福祉部健康推進課 保健福祉部長寿社会課 教育庁保健体育課

2 課室施策評価

(1) 推進計画における数値目標

数値目標	指標名	成人男女の1週間に1日以上運動・スポーツをする割合	計画策定時	49%（2010年度）				
			中間見直し時	49.1%（2016年度）				
	指標の説明	・文部科学省実施「体力・運動能力調査」による。 ・「岡山県晴れの国おかやま生き生きプラン」の目標値（生き生き指標）であり、同プランの見直しがあった場合は、本計画の目標値も見直す。	目標値	52.0%（2022年度）				
			実績値	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
				50.4%	48.5%	59.5%	10月以降公表予定	

数値目標	指標名	成人の1日の歩数	計画策定時	(1) 20～64歳：男性7,960歩、女性6,818歩 (2) 65歳以上：男性5,749歩、女性4,964歩 (いずれも2011年度)				
			中間見直し時	(1) 20～64歳：男性8,068歩、女性6,520歩 (2) 65歳以上：男性5,502歩、女性4,859歩 (いずれも2016年度)				
	指標の説明	・「岡山県第2次健康おかやま21」との整合を図っている（計画策定時に対し、男性はプラス約1000歩、女性はプラス約1500歩）。 ・基礎データのための調査（県民健康調査）は5年に一度の実施。	目標値	(1) 20～64歳：男性9,000歩、女性8,500歩 (2) 65歳以上：男性7,000歩、女性6,000歩 (いずれも2022年度)				
			実績値	(2022年度実績を記入)				

(2) 成果及び課題

成果	- 令和3年11月14日に開催を予定していた「おかやまマラソン2021」は、新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止となった。 - レクリエーションスポーツや運動の実践方法等の啓発、働き盛り世代のスポーツ実施率の向上や高齢者の運動・スポーツの普及を図るとともに、県民の健康保持増進に取り組んだ。 - スポーツの体験教室やクラブ・サークル情報、県内スポーツイベント情報を提供するホームページ「おかやまスポーツナビ」について、利便性がより高まるよう改修した。
課題	- おかやまマラソンについては、新型コロナウイルスの感染防止対策を万全なものとして、次回大会の開催を目指すこととするが、引き続き、国内の感染状況や医療現場の逼迫状況などを見極めながら、準備を進めていく必要がある。 - レクリエーションスポーツなどの軽運動をさらに普及させるため、よりわかりやすい情報提供を検討する必要がある。 - 気軽に運動・スポーツに取り組める環境整備や簡単に行うことができる健康・体力づくりを一層推進するため、内容や情報提供を工夫する。

3 各課における評価

番号	部課名	事務事業の実施内容、成果・課題及び総合評価				
1	スポーツ振興課	事業内容	・スポーツを通じた健康づくり・体力づくりを支援し、レクリエーションスポーツを実施するとともに、健康相談や栄養指導等を併せて実施し、事業の普及を図る。			
		成果・課題	【成果】 ・スポーツ教室やサークル情報、スポーツイベント情報を提供するポータルサイト「おかやまスポーツナビ」について、利便性がより高まるように改修した。 【課題】 ・県民のニーズ等を踏まえて、新たな事業スキームを考えていく必要がある。 ・ポータルサイト「おかやまスポーツナビ」を活用してもらえるよう、タイムリーな情報収集・掲載等に努める必要がある。	評価	2018年度	3
					2019年度	3
					2020年度	3
					2021年度	3
					2022年度	

2	スポーツ振興課(おかやまマラソン事務局)	事業内容	・おかやまマラソンについて、大会の開催を通じて、県民の健康と体力の増進、地域の活力向上や一体感の醸成を図るとともに、本県の情報発信や、地域経済の活性化など地域振興にも繋げる。また、スタンプラリーなどの取組を通じて、県内他大会と連携し、県内全体のマラソン大会の盛り上げを図る。				
		成果・課題	【成果】 ・令和3年11月14日に開催を予定していた「おかやまマラソン2021」は、新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止となった。 ・次回大会は感染防止策を万全なものとして開催できるよう、日本陸上競技連盟のガイダンス等に基づく感染防止対策を講じるための各種準備を進めた。 【課題】 ・新型コロナウイルスの感染防止対策を万全なものとして、次回大会の開催を目指すこととするが、引き続き、国内の感染状況や医療現場の逼迫状況を見極めながら準備を進めていく必要がある。	評価	2018年度	4	
					2019年度	4	
					2020年度	2	
					2021年度	2	
					2022年度		
3	健康推進課	事業内容	・「地域・職域保健連携推進協議会」において、関係機関・団体と働き盛り世代の運動定着について協議する。 ・高齢者向けに作成した、フレイル予防のパンフレットを活用し、運動を含めた健康づくりの普及を図る。				
		成果・課題	【成果】 ・高齢者向けに作成したフレイル予防のパンフレットを、健康づくりボランティアが地域で活用し、身体活動の促進や運動習慣の定着について、普及啓発を図ることができた。 【課題】 ・壮年期、高齢期それぞれの世代にあった運動の種類や習慣の定着に向けた方法をさらに普及啓発していく必要がある。	評価	2018年度	3	
					2019年度	3	
					2020年度	3	
					2021年度	3	
					2022年度		
4	長寿社会課	事業内容	・全国健康福祉祭(ねんりんピック)への選手団の派遣 ・地域活動参加のための情報提供及び相談対応 ・ニュースポーツの普及及び用具の貸出等				
		成果・課題	【成果】 ・例年、全国健康福祉祭(ねんりんピック)へ県選手団を派遣し、高齢者の健康の保持・増進、社会参加、生きがいの高揚等を図っているが、2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、再延期となった。 ・ニュースポーツの普及及び用具の貸出をすることで、高齢者の健康と生きがいづくり、地域参加への一助となった。 【課題】 ・全国健康福祉祭(ねんりんピック)への選手団の派遣に当たり、岡山県社会福祉協議会等と連携し、参加団体や実行委員会(事務局)等との調整を図るとともに、全国健康福祉祭(ねんりんピック)やニュースポーツ等の普及啓発を図り、地域参加を促進していく必要がある。	評価	2018年度	3	
					2019年度	3	
					2020年度	2	
					2021年度	2	
					2022年度		
5	保健体育課	事業内容	・地域におけるスポーツ活動の拠点として学校開放事業を推進する。				
		成果・課題	【成果】 ・公立学校の体育施設の開放率は国の平均を上回っている。 H28年度開放状況 屋外運動場78%(75%)、体育館90%(82%)、武道場59%(41%) H30年度開放状況 屋外運動場75%(73%)、体育館89%(86%)、武道場61%(41%) ※()は全国平均 ※学校体育施設設置等状況調査(R1.5月時点) 【課題】 ・公立学校の体育施設の開放率は、全国平均を上回っているものの、さらに多くの県民が活用できるように市町村教委や県立学校に対して、ホームページを活用するなどして周知する。	評価	2018年度	3	
					2019年度	3	
					2020年度	3	
					2021年度	3	
					2022年度		

4 総合評価

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
総合評価	3.2	3.2	2.6	2.6	

岡山県スポーツ推進計画（改訂版） 2021年度施策評価シート

1 評価施策名

基本施策	I ライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進		
施策の方向性	生涯スポーツの推進(幼児期から高齢期までライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進)		
施策名	4 学校における体育・スポーツ活動の充実 (1)体育授業の充実・改善	担当課室	教育庁保健体育課

2 課室施策評価

(1) 推進計画における数値目標

数値目標	指標名	該当なし	計画策定時	
			中間見直し時	
	指標の説明		目標値	
			実績値	

(2) 成果及び課題

成果	・運動やスポーツが好きな児童生徒の育成につながる体育・保健体育授業等の実施に向けて、県教育庁保健体育課指導主事の派遣による研修支援（体育授業エキスパート派遣事業）を行った。
課題	・体育授業エキスパート派遣事業について、さらに多くの学校が活用するように市町村教委や学校に周知する必要がある。

3 各課における評価

番号	部課名	事務事業の実施内容、成果・課題及び総合評価					
1	保健体育課	事業内容	・県教育庁保健体育課指導主事の派遣による研修支援 ・授業実践例等をホームページで紹介				
		成果・課題	評価	2018年度	3	【成果】 ・体育授業エキスパート派遣事業では、体育・保健体育の研究授業における指導助言者、校内研修における講師、パラスポーツ体験会の講師など、学校や地域のニーズに合った研修を実施することができた。 活用回数26回(小:23回、中:3回) 参加教員数370名(小:291名、中:79名) ・小学校における新学習指導要領を踏まえた授業改善と体育の授業力を向上させるための研究を6校のモデル校で行った。 ・市町村担当査会や中高体育担当者会等で、武道のケガの防止に関する研修を行うことができた。	
【課題】 ・体育授業エキスパート派遣事業について、活用回数のさらなる増加のため、市町村教委や学校に周知する必要がある。 ・モデル校での研究実践を、小体連と連携しながら広く県内に周知する必要がある。 ・公立中学校武道授業におけるケガの発生件数は、新型コロナウイルス感染症の影響から、実施内容等の変更・工夫により、ここ数年減少傾向であったが、昨年度は、前年より10件増加した。さらに事故防止に努める必要がある。 ケガの発生数 H28:48 → H29:35 → H30:39 → R1:37 → R2:6 → R3:16 ※日本スポーツ振興センターへ医療費を請求した件数							
	2019年度	3					
2020年度	3						
2021年度	3						
2022年度							

4 総合評価

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
総合評価	3.0	3.0	3.0	3.0	

岡山県スポーツ推進計画（改訂版） 2021年度施策評価シート

1 評価施策名

基本施策	I ライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進		
施策の方向性	生涯スポーツの推進（幼児期から高齢期までライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進）		
施策名	4 学校における体育・スポーツ活動の充実 (2) 子どもの体力向上への取組	担当課室	教育庁保健体育課

2 課室施策評価

(1) 推進計画における数値目標

数値目標	指標名	新体力テストにおける総合評価D及びEの児童生徒の割合	計画策定時	設定なし				
			中間見直し時	小5男子：27.7%、小5女子：23.3% 中2男子：24.2%、中2女子：11.2% (いずれも2016年度)				
	指標の説明	・スポーツ庁実施「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」による。 ・新体力テストにおいて実施する実技種目の記録を1～10点に得点化して総和し、その得点に応じて、A～E段階の5段階で評価したもの。	実績値	目標値				
				2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
				小5男子	29.0%	31.7%	—	35.5%
				小5女子	24.2%	26.0%	—	29.1%
				中2男子	26.7%	28.8%	—	31.5%
				中2女子	11.8%	12.1%	—	15.4%

数値目標	指標名	1週間の総運動時間数60分未満の児童生徒数の割合	計画策定時	小5男子：10.6%、小5女子：24.7% 中2男子：10.0%、中2女子：36.4% (いずれも2010年度)				
			中間見直し時	小5男子：5.7%、小5女子：10.5% 中2男子：7.1%、中2女子：20.7% (いずれも2016年度)				
	指標の説明	・スポーツ庁実施「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」による。	実績値	目標値				
				2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
				小5男子	7.1%	7.2%	—	8.6%
				小5女子	12.5%	11.6%	—	14.7%
				中2男子	6.3%	7.0%	—	7.4%
				中2女子	20.6%	19.3%	—	17.7%

(2) 成果及び課題

成果	・運動の習慣化、体力の向上を図る取組である、「みんなでチャレンジランキング」で、新型コロナウイルス感染症の影響により参加学校園数、参加人数ともに昨年度より減少したものの、感染症対策を講じた上で、150以上の学校園が実施した。 参加校数：158(159) 参加チーム数：1,273(1,310) 参加延べ人数：42,118(43,132) ※()はR2年度 ・児童自らが新体力テストにおける目標を設定し、記録更新に向けて挑戦する「体力アップ・マイベストチャレンジ！」を実施し、参加児童の体力向上への意欲を高めたり、運動時間を増やしたりすることができた。 参加校数：62 参加人数：5,228 目標達成児童数：1,617 ・学校や家庭での運動時間の増加を目的として、ピンゴカードの要素を取り入れた「いきいき岡山っ子☆運動習慣カード」を作成し、県内公立小学校へ配付した。一定の条件を達成した児童に運動マスターバッジを配付することで、継続的かつ自発的に運動をしようとする意識を高めることができた。 活用校数（年3回以上）：50校 活用児童数（年3回以上）：6,556 バッジ配付児童数：2,803
課題	・市町村教委や学校に対して、本県児童生徒の体力の状況と運動の習慣化や体力の向上につながるような説明を行い、今後さらに周知する必要がある。 ・引き続き、小体連と連携しながら子どもの体力向上への取組を進める必要がある。

3 各課における評価

番号	部課名	事務事業の実施内容、成果・課題及び総合評価																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1	保健体育課	事業内容	・「みんなでチャレンジランキン																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		成果・課題	【成果】 ・運動の習慣化、体力の向上を図る取組である、「みんなでチャレンジランキン	2018年度	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
			・児童自らが新体力テストにおける目標を設定し、記録更新に向けて挑戦する「体力アップ・マイベストチャレンジ！」を実施し、参加児童の体力向上への意欲を高めたり、運動時間を増やしたりすることができた。 参加学校数:62 参加人数:5,228 目標達成児童数:1,617	2019年度	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
			・学校や家庭での運動時間の増加を目的として、ビンゴカードの要素を取り入れた「いきいき岡山っ子☆運動習慣カード」を作成し、県内公立小学校へ配付した。一定の条件を達成した児童に運動マスターバッジを配付することで、継続的かつ自発的に運動をしようとする意識を高めることができた。 活用校数(年3回以上):50校 活用児童数(年3回以上):6,556 バッジ配付児童数:2,803	2020年度	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
			【課題】 ・市町村教委や学校に対して、本県児童生徒の体力の状況と運動の習慣化や体力の向上につながる事業の積極的な活用について、さらに周知する必要がある。 ・令和3年度体力テストの結果は、小学校男子が全国平均点を上回ったものの、小学校女子については、全国平均点を下回っている。	2021年度	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													

4 総合評価

総合評価	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	2.0	2.0	2.0	2.0	

岡山県スポーツ推進計画（改訂版） 2021年度施策評価シート

1 評価施策名

基本施策	I ライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進		
施策の方向性	生涯スポーツの推進（幼児期から高齢期までライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進）		
施策名	4 学校における体育・スポーツ活動の充実 (3)運動部活動の改善・充実	担当課室	教育庁保健体育課

2 課室施策評価

(1) 推進計画における数値目標

数値目標	指標名	該当なし	計画策定時	
			中間見直し時	
	指標の説明		目標値	
			実績値	

(2) 成果及び課題

成果	- 平成30年9月に策定した「岡山県運動部活動の在り方に関する方針」を受け、短時間に合理的でかつ効率的、効果的な科学的トレーニングの導入や生徒の主体的な取り組みを促す指導法等について、中高運動部活動担当者を対象とした研修会やモデル校による実践研究を行った。 - 運動部活動に係る事故発生件数は前年度と比較して増加した。 - 令和2年度に作成した運動部活動指導資料を県内全ての中・中等教育・高等学校及び特別支援学校に配付し、体罰の根絶、セクハラ・パワハラをはじめとする不適切な指導の防止及び安全管理、新型コロナウイルス感染症に対する対応等の周知を図った。
課題	- 国のガイドライン、県の方針を踏まえた、持続可能な運動部活動の在り方について、引き続き研究し、適切な運動部活動の運営を示していく必要がある。 - 体罰や不適切な指導の根絶と、医・科学的なトレーニングに基づく適切な部活動が実施されるよう、徹底する必要がある。

3 各課における評価

番号	部課名	事務事業の実施内容、成果・課題及び総合評価				
1	保健体育課	事業内容	- 運動部活動の在り方に関する検討 - 体罰や不適切な指導等の根絶や、医・科学的なトレーニングに基づく指導法及び安全管理などの研修会の実施 - 学校体育大会の共催、後援と全国・ブロック大会に参加する生徒の支援 - 部活動指導員の派遣			
			成果・課題	【成果】 平成30年9月に策定した「岡山県運動部活動の在り方に関する方針」を受け、短時間に合理的でかつ効率的、効果的な科学的トレーニングの導入や生徒の主体的な取り組みを促す指導法等について、中高運動部活動担当者を対象とした研修会やモデル校による実践研究を行った。 ・運動部活動に係る事故発生件数は前年度と比較して増加した。 県内中・高校生の運動部活動中の災害発生（日本スポーツ振興センターへの申請）件数 R1年度 4,779件 → R2年度 3,805件 → R3年度 4,267件 ・令和2年度に県教委が作成し、全校配布した運動部活動指導資料を活用し、体罰の根絶、セクハラ・パワハラをはじめとする不適切な指導の防止及び安全管理などの研修を行った。 【課題】 ・国のガイドライン、県の方針を踏まえた、持続可能な運動部活動の在り方について、引き続き研究し、適切な運動部活動の運営を示していく必要がある。 ・体罰や不適切な指導の根絶と、医・科学的なトレーニングに基づく適切な部活動が実施されるよう、徹底する必要がある。	2018年度	3
					2019年度	3
					2020年度	3
					2021年度	3
					2022年度	

4 総合評価

総合評価	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	3.0	3.0	3.0	3.0	

岡山県スポーツ推進計画（改訂版） 2021年度施策評価シート

1 評価施策名

基本施策	I ライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進		
施策の方向性	生涯スポーツの推進（幼児期から高齢期までライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進）		
施策名	4 学校における体育・スポーツ活動の充実 (4)学校体育関係団体の活動支援	担当課室	教育庁保健体育課

2 課室施策評価

(1) 推進計画における数値目標

数値目標	指標名	該当なし	計画策定時	
			中間見直し時	
	指標の説明		目標値	
			実績値	

(2) 成果及び課題

成果	・各体連や学体連等と連携し、各種研修会において新学習指導要領に対応した体育、保健体育の授業についての指導助言を行った。
課題	・学習指導要領に示されている「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力」を育成するためには、体育、保健体育の授業のみならず、休み時間、放課後の過ごし方や運動部活動等も重要なことから、各体連とさらに連携を深め、望ましい生活習慣及び運動習慣の確立を図っていく必要がある。

3 各課における評価

番号	部課名	事務事業の実施内容、成果・課題及び総合評価				
1	保健体育課	事業内容	・小、中、高体連への指導助言 ・小、中、高体連が開催する各種スポーツ大会等の支援			
		成果・課題	【成果】 ・各体連や学体連等と連携し、各種研修会において新学習指導要領に対応した体育、保健体育の授業についての指導助言を行った。 【課題】 ・学習指導要領に示されている「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力」を育成するためには、体育、保健体育の授業のみならず、休み時間、放課後の過ごし方や運動部活動等も重要なことから、各体連等とさらに連携を深め、望ましい生活習慣及び運動習慣の確立を図っていく必要がある。	評価	2018年度	3
					2019年度	3
					2020年度	3
					2021年度	3
					2022年度	

4 総合評価

総合評価	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	3.0	3.0	3.0	3.0	

岡山県スポーツ推進計画（改訂版） 2021年度施策評価シート

1 評価施策名

基本施策	I ライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進		
施策の方向性	生涯スポーツの推進（幼児期から高齢期までライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進）		
施策名	5 障害のある人の運動・スポーツ活動の推進 (1)障害者スポーツへの理解と参加機会の確保	担当課室	保健福祉部障害福祉課 環境文化部スポーツ振興課 土木部都市計画課

2 課室施策評価

(1) 推進計画における数値目標

数値目標	指標名	障害者スポーツ・レクリエーション教室 参加者数	計画策定時	年間821人（2011年度）				
			中間見直し時	年間1,105人（2016年度）				
	指標の説明	「第3期岡山県障害者計画」に準じる。	目標値	年間1,200人（2022年度）				
			実績値	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
				680人	744人	—	297人	

(2) 成果及び課題

成果	・「第21回岡山県障害者スポーツ大会」については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止し、次年度開催に向けての検討を行った。 ・障害者スポーツ教室については、まん延防止等重点措置等が発令していない時期を中心に新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行った上で26回（参加者297名）実施した。 ・個別施設計画中に、障害のある人も含め、利用者の利便性向上につながる内容を盛り込んでおり、計画実施に向けて施設管理者と情報共有を行った。 ・岡山武道館については、現在施工中の主道場改修、昨年度竣工した新練習道場建替工事ともに、トイレの洋式化などあらゆる立場の人が利用しやすい施設整備に向けた内容となっている。
課題	・障害のある人の障害の種類や程度、興味などに応じたスポーツに気軽に楽しめる機会や競技力の向上を図る場の提供に努める必要がある。 ・コロナ禍におけるスポーツ事業の開催について検討する必要がある。 ・施設管理者と連携しながら、個別施設計画を着実に実行していくとともに、ユニバーサルデザインに関する知識の向上等利用者サービスの向上に向けた取組を行っていく必要がある。

3 各課における評価

番号	部課名	事務事業の実施内容、成果・課題及び総合評価				
1	障害福祉課	事業内容	・次年度における「岡山県障害者スポーツ大会」の開催方法について検討 ・障害者スポーツ教室については、まん延防止等重点措置等が発令していない時期を中心に新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行った上で26回(参加者297名)実施した。			
		成果・課題	【成果】 ・「第21回岡山県障害者スポーツ大会」については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止としたが、次年度における開催方法について検討を行った。 ・障害者スポーツ教室については、まん延防止等重点措置等が発令していない時期を中心に新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行った上で26回(参加者297名)実施した。 【課題】 ・障害のある人の障害の種類や程度、興味などに応じたスポーツに気軽に楽しめる機会や競技力の向上を図る場の提供に努める必要がある。	評価	2018年度	3
					2019年度	3
					2020年度	2
					2021年度	2
					2022年度	

2	スポーツ振興課	事業内容	・施設のユニバーサルデザインによる障害のある人が使いやすい環境づくり				
		成果・課題	【成果】 ・全ての施設(岡山武道館、津山体育館、美作ラグビー・サッカー場、備前テニスセンター、津山陸上競技場、笠岡陸上競技場)について、個別施設計画中に、障害のある人も含め、利用者の利便性向上につながる内容を盛り込んでおり、計画実施に向けて施設管理者と情報共有を行った。 ・岡山武道館の主道場について、トイレの洋式化や、手すりの改修及び多目的トイレの設置などに向けて具体的な設計を行い、あらゆる立場の人が利用しやすい施設整備に向け改修工事を行っている。(改修工事はR5年1月完成予定)また、練習道場の建替工事を行ったが、多目的トイレや入口付近にスロープを設置した。(R3年8月竣工) 【課題】 ・岡山武道館の改修工事をはじめとして、施設管理者と連携しながら、個別施設計画を着実に実行していく必要がある。 また、個別施設計画の内容よりも、さらに細やかな施設整備を行うことで、利用者サービスの向上を図り、利用者数の増加に取り組む必要があるため、施設管理者を対象とした研修会を実施するなど、ユニバーサルデザインに関する知識の向上を図る必要がある。	評価	2018年度	3	
					2019年度	3	
					2020年度	3	
					2021年度	3	
					2022年度		
3	都市計画課	事業内容	・施設のユニバーサルデザインによる障害のある人が使いやすい環境づくり				
		成果・課題	【成果】 ・障害のある人だけでなく子どもから高齢者まで、そして観客・競技者・運営者などあらゆる立場の人が不便を感じることなく利用できるよう、施設にはきめ細かくユニバーサルデザインを採用している。 (車椅子対応観客席、車椅子対応スロープ、車椅子対応型エレベーター、車椅子使用者駐車場、多目的トイレ、音声案内エレベーター、点字ブロック等)	評価	2018年度	3	
					2019年度	3	
					2020年度	3	
					2021年度	3	
					2022年度		

4 総合評価

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
総合評価	3.0	3.0	2.7	2.7	

岡山県スポーツ推進計画（改訂版） 2021年度施策評価シート

1 評価施策名

基本施策	I ライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進		
施策の方向性	生涯スポーツの推進（幼児期から高齢期までライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進）		
施策名	5 障害のある人の運動・スポーツ活動の推進 (2) 障害者スポーツの指導者やボランティア養成及び資質の向上	担当課室	保健福祉部障害福祉課

2 課室施策評価

(1) 推進計画における数値目標

数値目標	指標名	「障がい者スポーツ指導員」養成人数	計画策定時	設定なし				
			中間見直し時	年間23人（2012～2016年度の平均）				
	指標の説明	・「第3期岡山県障害者計画」に準じる。 ・（公財）日本障がい者スポーツ協会の公認指導者である「障がい者スポーツ指導員」を指す。	目標値	年間30人（2022年度）				
			実績値	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
				16人	12人	—	21人	

(2) 成果及び課題

成果	- 岡山県障害者スポーツ指導員（初級）養成講習会については、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行った上で、2年ぶりに開催した。 - ボランティア活動について、例年、岡山県障害者スポーツ大会への参加を呼びかけていたが、大会が中止となったためボランティアの活動の場もなかった。
課題	コロナ禍におけるスポーツ事業の実施について検討する必要がある。

3 各課における評価

番号	部課名	事務事業の実施内容、成果・課題及び総合評価				
1	障害福祉課	事業内容	- 岡山県障害者スポーツ指導員（初級）養成講習会の実施 - 障害者スポーツ指導者養成講習会等への派遣中止 「岡山県障害者スポーツ大会」の中止			
		成果・課題	【成果】 ・岡山県障害者スポーツ指導員（初級）養成講習会については、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行った上で、2年ぶりに開催した。 また、日本障がい者スポーツ協会等が実施する指導者養成講習会については、事業主体による中止が相次いだため派遣に至らなかった。 ・ボランティア活動について、「第21回岡山県障害者スポーツ大会」が中止になったことから、活動の場の提供ができなかった。 【課題】 ・コロナ禍における障害者スポーツ事業の開催方法について検討する必要がある。 ・養成された指導員の再登録及び活用の促進	評価	2018年度	3
					2019年度	3
					2020年度	2
					2021年度	2
					2022年度	

4 総合評価

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
総合評価	3.0	3.0	2.0	2.0	

岡山県スポーツ推進計画（改訂版） 2021年度施策評価シート

1 評価施策名

基本施策	I ライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進		
施策の方向性	生涯スポーツの推進（幼児期から高齢期までライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進）		
施策名	6 地域と連携した運動・スポーツ活動の推進	担当課室	環境文化部スポーツ振興課 教育庁保健体育課

2 課室施策評価

(1) 推進計画における数値目標

数値目標	指標名	P D C Aサイクルにより運営の改善等を図る総合型地域スポーツクラブの数	計画策定時	設定なし				
			中間見直し時	11クラブ（2016年度）				
			目標値	30クラブ（2022年度）				
指標の説明	スポーツ庁実施「総合型地域スポーツクラブに関する実態調査」による	実績値	2018年度 2019年度 2020年度 2021年度 2022年度					
			14クラブ 13クラブ 13クラブ 15クラブ					

(2) 成果及び課題

成果	・市町村に、総合型地域スポーツクラブの設立を働きかけるとともに、総合型クラブ等を活用した事業等の情報提供を行った。 ・地域スポーツ推進研修会を開催し、総合型クラブの指導者やスポーツ推進委員、行政職員等の情報共有・交流を促進し、連携の強化を図った。 ・県スポーツ協会を通じて、総合型クラブに対し、学校部活動との連携を働きかけた。
課題	・自治体によっては、既存の組織で住民のスポーツ活動を推進しているところがあり、総合型クラブに対する住民ニーズが低いところもある。 ・広域スポーツセンターについては、国の動向を踏まえながら、引き続き、その位置づけを検討する必要がある。 ・スポーツ推進委員との連携強化も必要である。

3 各課における評価

番号	部課名	事務事業の実施内容、成果・課題及び総合評価				
1	スポーツ振興課	事業内容	・市町村等に総合型地域スポーツクラブの設立を働きかけるとともに、岡山県スポーツ協会と連携して、総合型クラブの実情を把握するなど、その設立・育成を図る。 ・地域のスポーツ推進研修会を開催し、総合型クラブの関係者や行政等のそれぞれの立場からの情報共有・交流を促進する。登録・認証制度の運用に向けて、説明及び情報共有を図る。 ・総合型クラブの活性化を促進するため、岡山県スポーツ協会に委託し、広域スポーツセンター業務を担うスタッフを設置する。			評価
2	保健体育課（再掲）	成果・課題	【成果】 ・市町村に、総合型地域スポーツクラブの設立を働きかけるとともに、総合型クラブ等を活用した事業等の情報提供を行った。 ・地域スポーツ推進研修会を開催し、総合型クラブの指導者やスポーツ推進委員、行政職員等の情報共有・交流を促進し、連携の強化及び登録・認証制度の運用に向けての説明、情報共有を図った。 【課題】 ・自治体によっては、既存の組織で住民のスポーツ活動を推進しているところがあり、総合型クラブに対する住民ニーズが低いところもある。 ・広域スポーツセンターについては、国の動向を踏まえながら、引き続き、その位置づけを検討する必要がある。 ・スポーツ推進委員との連携強化も必要である。 ・登録・認証制度運用に向けて、より一層の説明と理解を得られるよう県スポーツ協会と連携を図る必要がある。			評価
2	保健体育課（再掲）	事業内容	・地域におけるスポーツ活動の拠点として学校開放事業を推進する。			評価
2	保健体育課（再掲）	成果・課題	【成果】 ・公立学校の体育施設の開放率は国の平均を上回っている。 - H28年度開放状況 屋外運動場78%（75%）、体育館90%（82%）、武道場59%（41%） - H30年度開放状況 屋外運動場75%（73%）、体育館89%（86%）、武道場61%（41%） ※（ ）は全国平均 ※学校体育施設設置等状況調査（R1.5月時点） 【課題】 ・公立学校の体育施設の開放率は、全国平均を上回っているものの、さらに多くの県民が活用できるように市町村教委や県立学校に対して、ホームページを活用するなどして周知する。			評価

4 総合評価

総合評価	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	3.0	3.0	3.0	3.0	

岡山県スポーツ推進計画（改訂版） 2021年度施策評価シート

1 評価施策名

基本施策	Ⅱ アスリートの育成と持続可能な指導・支援システムの構築		
施策の方向性	競技スポーツの推進(チーム岡山競技力の向上)		
施策名	1 アスリートの育成・強化	担当課室	環境文化部スポーツ振興課 教育庁保健体育課

2 課室施策評価

(1) 推進計画における数値目標

数値目標	指標名	国民体育大会における天皇杯順位	計画策定時	13位(2012年)				
			中間見直し時	16位(2017年)				
	指標の説明	本県人口規模からは高い目標だが、2005年岡山国体以降の成績も勘案して設定している。	目標値	10位台(2022年)				
			実績値	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
				11位	12位	—	—	

数値目標	指標名	全国高等学校総合体育大会の入賞者数	計画策定時	58(2012年度)				
			中間見直し時	84(2016年度)				
	指標の説明	2016年度に岡山県を中心に開催された高校総体を含めた過去5年間の入賞数の平均(61.2)を勘案して設定している。	目標値	60台(2022年度)				
			実績値	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
				48	68	—	57	

(2) 成果及び課題

成果	・新型コロナウイルス感染症の影響により第76回国民体育大会及びそれに繋がる中国ブロック大会等が開催されなかったため、選手が練習の成果を確認することができない。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により強化遠征・合同練習会・トップコーチ招聘が困難な状況となったが、可能な範囲で選手の競技力の向上や指導者のレベルアップも図られた。また、選手発掘が課題となっている競技団体においては、小中学生を対象とした競技体験会を開催している。 ・新型コロナウイルス感染症の影響がある中で、全国高校総体の8位入賞数は、生徒の計画的・継続的な活動により57の入賞者数を獲得した。 全国高校総体8位入賞者数57(68) ※()はR1年度 オリンピック育成事業の中で、指定選手のコンディショニングやサプリメントに関する補助など、医・科学サポートを進めている。
課題	・国体では、新型コロナウイルス感染症により活動が制限された影響が懸念される。継続して競技得点の大きい団体種目の強化が必要であるが、本大会が2大会(75回、76回)連続で開催中止となり、目標が失われたことや少年種別に国体出場経験者がいなくなることによる競技力の低下が心配される。 ・運動部活動に関する国のガイドラインや県方針の内容を遵守した、短時間に、合理的でかつ効率的、効果的な科学的トレーニングの導入や生徒の主体的な取り組みを促す活動等を研究し、関係団体と連携しながら、実践していく必要がある。 ・個別対応事例などを整理しながら、県と県スポーツ協会医・科学委員会で一体となった医・科学サポート体制が確立できるよう研究を重ねていきたい。

3 各課における評価

番号	部課名	事務事業の実施内容、成果・課題及び総合評価						
1	スポーツ振興課	事業内容	・恒常的に全国上位の競技力を維持するために、ジュニア年代からの一貫指導体制の中で、系統的・継続的強化に取り組む必要があるため、各競技の年代ごとの県内トップレベルの選手を系統的に育成し、成年までつながる競技力の向上を図る。 ・一昨年度から競技体験会を実施し、選手発掘の機会を提供するとともに、各競技団体から選抜された中学生に対し、各学年の競技レベルや発育・発達段階に応じた最適なプログラムを提供する。 ・オリンピック育成事業等、個別の事業を通じてコンディショニング指導や医・科学サポートに関する支援を進める。			評価	2018年度	4
			成果・課題	【成果】 ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響による活動制限はあるものの、換気や消毒など対策を行いながら、各競技団体ともに、効果的な練習ができているが、競技者の確保が困難な競技も増えつつあり、指導者の世代交代とともに、将来に向けた対策を講じていかなければならない。また、小学生や中学生の活動も定着し、小中あるいは中高が連携した取組も増えてきている。 ・オリンピック育成事業によって25名の選手を強化指定し、5名が東京五輪に出場、うち1名が金メダリスト、1名が7位入賞を成し遂げた。 【課題】 ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響による活動制限はある中での全国大会の実施または中止となった影響から効果の検証は単年では困難であるが、事業が定着して効果的に進めることができていることから、継続的なデータの蓄積が不可欠である。 ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響による活動制限によって競技の普及ができてにくい状況から、今後の競技の普及・育成に競技団体とのさらなる連携が不可欠である。 ・個別対応事例などを整理しながら、県と県立協医・科学委員会と一体となった医・科学サポート体制が確立できるよう研究を重ねていきたい。	2019年度		4	
		2020年度			3			
		2021年度			3			
		2022年度						
		2	保健体育課		事業内容		・全国高校総体等における、本県生徒の活躍に向けた中体連・高体連との連携	
成果・課題	【成果】 ・新型コロナウイルス感染症の影響がある中で、全国高校総体の8位入賞数は、生徒の計画的・継続的な活動により57の入賞者数を獲得した。 全国高校総体8位入賞者数57(68) ※()はR1年度 【課題】 ・引き続き、新型コロナウイルス感染症の防止に留意しながら、運動部活動に関する国のガイドラインや県方針の内容を遵守した、合理的でかつ効果的、効率的な活動等を研究し、関係団体と連携しながら、実践していく必要がある。			2019年度		3		
				2020年度	3			
				2021年度	3			
				2022年度				

4 総合評価

総合評価	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	3.0	3.5	3.0	3.0	

岡山県スポーツ推進計画（改訂版） 2021年度施策評価シート

1 評価施策名

基本施策	Ⅱ アスリートの育成と持続可能な指導・支援システムの構築		
施策の方向性	競技スポーツの推進(チーム岡山競技力の向上)		
施策名	2 次世代アスリートの発掘・育成	担当課室	環境文化部スポーツ振興課

2 課室施策評価

(1) 推進計画における数値目標

数値目標	指標名	設定なし	計画策定時	
			中間見直し時	
	指標の説明		目標値	
			実績値	

(2) 成果及び課題

成果	・2019年第74回国体における入賞数は、少年男子24、少年女子13であった。2020年第75回鹿児島国体、2021年第76回三重国体は2年連続で中止となったため数値的な成果は示せない。冬季大会少年女子スケート（ショートトラック）において、優勝を果たしている。 ・「チャレンジ ザ トップ！」事業において国内トップ水準のチーム、指導者を招聘し県内競技レベルの向上を図ることができた。 ・レッツ チャレンジ！競技体験事業やスポーツ活動奨励事業、ステップアップおかやまアスリート事業において、専門的な指導者による競技体験や指導を受けることができ、競技に対する興味関心が高まった。
課題	・コロナ禍の中でも途切れることなくできる強化と安心安全な活動の両立を図る。 ・強化体制が継続的に維持できている競技がある反面、普及や競技者の確保に窮している競技もあり、このことに対する対策が急務である。

3 各課における評価

番号	部課名	事務事業の実施内容、成果・課題及び総合評価				
1	スポーツ振興課	事業内容	・「チャレンジ ザ トップ！」事業 中学生年代における国内トップ水準のチーム、指導者を招聘し、合同練習や試合を行っている。 ・レッツ チャレンジ！競技体験事業 それぞれの競技特性に応じて小学生、中学生、または高校生を対象に競技体験の機会を提供する。 ・スポーツ活動奨励事業 小学生を対象に専門的な実技指導を受ける機会を提供する。 ・ステップアップ おかやまアスリート事業 県が主導して、競技普及に窮している複数の競技団体と共同で体験会を実施する。			
			成果・課題	評価	【成果】 ・チャレンジ ザ トップ事業では、ハンドボール男女(大分中、望海中)を招聘。全国トップレベルの指導力を持つ監督と日本代表経験のある監督による指導を受け、選手のモチベーション向上やスキルアップ、指導者の研修に繋がった。この直後に行われた第12回全国中学生クラブチームカップで県代表チーム(男子)が準優勝した。 ・レッツ チャレンジ！競技体験事業やスポーツ活動奨励事業では、専門の指導者による競技体験や指導を受けることができ、競技に対する興味関心が高まった。 ・ステップアップ おかやまアスリート事業では、ボクシング、ウエイトリフティング、フェンシング、スポーツクライミングの4競技団体が共同で体験会を2回実施。競技団体指導者の専門的指導のもと、普段なかなか触れることのできない競技を延べ約40名の児童が体験した。	
		2018年度			3	
		2019年度			3	
		2020年度			3	
		2021年度	3			
【課題】 ・いずれの事業も定着して、効果的に進めることができていないが、短期間で成果・効果を上げることは困難なことから、継続的な実施と広報が不可欠である。	2022年度					

4 総合評価

総合評価	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	3.0	3.0	3.0	3.0	

岡山県スポーツ推進計画（改訂版） 2021年度施策評価シート

1 評価施策名

基本施策	Ⅱ アスリートの育成と持続可能な指導・支援システムの構築		
施策の方向性	競技スポーツの推進（チーム岡山競技力の向上）		
施策名	3 持続可能な一貫指導・支援システムの構築	担当課室	環境文化部スポーツ振興課

2 課室施策評価

(1) 推進計画における数値目標

数値目標	指標名	設定なし	計画策定時	
			中間見直し時	
	指標の説明		目標値	
			実績値	

(2) 成果及び課題

成果	・国内トップレベル大会等の現場研修へ、5競技7名の強化指定指導者を派遣し（オリンピック育成事業）、選手の育成環境の整備に努めた。（オリンピック強化指定選手25名のうち、日本代表及び日本代表候補8名 U代表3名） ・大学4年生で4名のアスリートの就職者を確保し、成果を上げることができた。 ・キャリア教育に特化した個別事業はないが、各種強化事業の中で取り組んでいる。
課題	・指導者の高齢化や減少が進み、次世代を担う若手・中堅指導者の育成が急務となっている競技団体が増えている。 ・各競技の目標となる選手の育成とその経験を活かした指導者を養成することは、本県の競技力向上につながる。 ・アスリート就職支援事業では、より効果的なアスリート就職支援に繋がるよう、協力企業の開拓や採用後の支援等についても研究していきたい。 ・各強化事業の中で、競技団体と連携しながら着実に取り組んでいく必要がある。 ・本県スポーツ振興の担い手を育成するため、関係機関等とも連携しながら、引き続き研究する必要がある。

3 各課における評価

番号	部課名	事務事業の実施内容、成果・課題及び総合評価				
1	スポーツ振興課	事業内容	・将来、オリンピックをはじめ、国際大会で活躍する選手の育成が期待される県内トップレベルの指導者に対し、高度な指導方法と知識を得る機会を提供する。 ・ジュニア期から岡山で育成され、県内外で活躍している心身ともに優れたアスリートの就職を促進することで、継続的に優秀な人材を確保し、競技スポーツの推進はもとより、スポーツを通じた地域貢献に資する。 ・将来、オリンピックをはじめ、国際大会で活躍する選手の育成が期待される県内トップレベルの指導者に対し、高度な指導方法と知識を得る機会を提供する。 ・キャリア教育に特化した個別事業はないが、各種強化事業の中で取り組んでいる。			
			成果・課題	【成果】 ・強化指定を受けた指導者は、現地での研修(オリンピック育成事業)や、指導者研修会で、世界で戦い抜く指導方法を学ぶことができた。 ・アスリート就職支援事業を活用した大学4年生のうち、4名が就職内定を確保し、成果を上げることができた。 ・キャリア教育については、県としては事業化していないため評価はできないが、各種強化事業等において、各競技団体内で取り組まれている。 【課題】 ・アスリート就職支援事業では、協力企業の開拓や、より効果的なアスリートの就職支援に繋がるような採用後の取組等の検討が必要である。 ・本県スポーツ振興の担い手を育成するため、関係機関等との更なる連携が必要である。	評価	2018年度
		2019年度				3
		2020年度				3
		2021年度				3
		2022年度				

4 総合評価

総合評価	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	3.0	3.0	3.0	3.0	

岡山県スポーツ推進計画（改訂版） 2021年度施策評価シート

1 評価施策名

基本施策	Ⅱ アスリートの育成と持続可能な指導・支援システムの構築		
施策の方向性	競技スポーツの推進(チーム岡山競技力の向上)		
施策名	4 障害者アスリートの育成と支援体制の構築	担当課室	環境文化部スポーツ振興課 保健福祉部障害福祉課

2 課室施策評価

(1) 推進計画における数値目標

数値目標	指標名	設定なし	計画策定時	
			中間見直し時	
	指標の説明		目標値	
			実績値	

(2) 成果及び課題

成果	・「第21回岡山県障害者スポーツ大会」については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止し、次年度開催に向けての検討を行った。 ・第21回全国障害者スポーツ大会については、開催中止となったため、選手団の派遣を行えなかった。 ・岡山県障害者スポーツ指導員（初級）養成講習会については、新型コロナウイルス感染拡大防止策を行った上で2年ぶりに開催し、37人の参加があった。 ・パラリンピック等への出場を目指す障害者アスリートを対象に、強化合宿や国際大会参加等に要する費用の一部を補助する「パラリンピアン育成事業」を実施し、当年度は6名を強化指定選手として選定した。また、強化指定選手の指導者2名についても講習会参加に要する費用等を補助した。
課題	・コロナ禍におけるスポーツ事業の開催方法について検討する必要がある。 ・障害の特性に応じた専門的な知識を備えた指導者に指導を受けることのできる環境づくり ・養成された指導員の再登録及び活用の促進

3 各課における評価

番号	部課名	事務事業の実施内容、成果・課題及び総合評価					
1	障害福祉課	事業内容	・「岡山県障害者スポーツ大会」の中止 ・「全国障害者スポーツ大会」及び団体競技地区大会への選手団の派遣中止 ・岡山県障害者スポーツ指導員（初級）養成講習会の実施、障害者スポーツ指導者養成講習会等への派遣（中止）				
		成果・課題	評価	2018年度	3	【成果】 ・「第21回岡山県障害者スポーツ大会」については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止し、次年度開催に向けての検討を行った。 ・障害者スポーツ教室については、まん延防止等重点措置等が発令していない時期を中心に新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行った上で26回（参加者297名）実施した。 ・第21回全国障害者スポーツ大会については、開催中止となったため、選手団の派遣を行えなかった。 ・岡山県障害者スポーツ指導員（初級）養成講習会については、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行った上で、2年ぶりに開催した。 また、日本障がい者スポーツ協会等が実施する指導者養成講習会については、事業主体による中止が相次いだため派遣に至らなかった。 ・ボランティア活動について、「第21回岡山県障害者スポーツ大会」が2年連続で中止になったことから、活動の場の提供ができなかった。 ・パラリンピック等への出場を目指す障害者アスリートを対象に、強化合宿や国際大会参加等に要する費用の一部を補助する「パラリンピアン育成事業」を実施し、当年度は6名を強化指定選手として選定し、1名が北京パラリンピック日本代表に選出された。また、強化指定選手の指導者2名についても講習会参加に要する費用等を補助した。	
						2019年度	3
						2020年度	2
						2021年度	2
						2022年度	
						【課題】 ・コロナ禍におけるスポーツ事業の開催方法について検討する必要がある。 ・障害の特性に応じた専門的な知識を備えた指導者に指導を受けることのできる環境づくり ・養成された指導員の再登録及び活用の促進	

4 総合評価

総合評価	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	3.0	3.0	2.0	2.0	

岡山県スポーツ推進計画（改訂版） 2021年度施策評価シート

1 評価施策名

基本施策	Ⅱ アスリートの育成と持続可能な指導・支援システムの構築		
施策の方向性	競技スポーツの推進(チーム岡山競技力の向上)		
施策名	5 クリーンでフェアなスポーツの推進によるスポーツの価値の向上	担当課室	環境文化部スポーツ振興課

2 課室施策評価

(1) 推進計画における数値目標

数値目標	指標名	設定なし	計画策定時	
			中間見直し時	
	指標の説明		目標値	
			実績値	

(2) 成果及び課題

成果	指導者の世代交代の時期を迎えるに当たり、次世代の指導者を育成し、一貫指導体制をうまく引き継いでいくことが求められている。そのために、指導者育成制度等への参加を促すことで、コーチとしてのあり方を再認識するなど、指導者としての基礎となる知識や各競技の専門的知識を継続的に習得することができた。しかし、新型コロナの関係で、他競技の指導者との意見交換等の研修が実施できず、県内指導者の連携体制の強化はできなかった。
課題	指導者の世代交代期を迎えている競技団体も多いが、次世代の指導者が少ない。また、指導者に求められる基礎的な資質能力の継続的な向上と県内指導者の連携体制が課題である。

3 各課における評価

番号	部課名	事務事業の実施内容、成果・課題及び総合評価				
1	スポーツ振興課	事業内容	・スポーツ指導者レベルアップ事業 県内の指導者に対して指導者としての基礎となる知識や、各競技の専門的知識を継続的に習得する機会を提供する。			
		成果・課題	【成果】 7競技から9名の推薦があり、6名がコーチ資格講習会を受講。1名が指導場面研修に参加し、指導者が学び続ける大切さを再認識し、専門知識を継続的に習得する機会となっている。 【課題】 講習会及び参加者から概ね好評を得ているが、直ちに成果が出るものではないことから、検証を続けていく。	評価	2018年度	3
					2019年度	3
					2020年度	3
					2021年度	2
					2022年度	

4 総合評価

総合評価	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	3.0	3.0	3.0	2.0	

岡山県スポーツ推進計画（改訂版） 2021年度施策評価シート

1 評価施策名

基本施策	Ⅲ スポーツを通じた活力があり絆の強い地域社会の実現		
施策の方向性	スポーツ参加人口の拡大と地域の活性化		
施策名	1 スポーツ参加人口の拡大	担当課室	環境文化部スポーツ振興課 おかやまマラソン事務局 保健福祉部健康推進課

2 課室施策評価

(1) 推進計画における数値目標

数 値 目 標	指標名	「普段の生活の中で芸術・文化、スポーツ等を実践したり、観て楽しめる地域になっている」と感じている人の割合	計画策定時	設定なし				
			中間見直し時	30.6%（2017年度）				
			目標値	38.0%（2022年度）				
	指標の説明	・岡山県実施「県民満足度調査」による。 ・「第3次晴れの国おかやま生き生きプラン」では指標から削除されている。	実績値	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
	28.8%			40.4%	28.0%	26.2%		

(2) 成果及び課題

成果	・トップクラブチームのホームゲームで実施する「県民応援デー」について、ファンに喜んでもらえるような企画を提供し、各クラブのファン・サポーターの拡大やスポーツに取り組む意欲の向上に努めた。 ・県内5クラブのホームゲーム等において、県民無料招待および小学生を対象としたスポーツ教室を実施し、県民が再びスポーツ観戦やスポーツ活動を楽しむ機会を提供した。 ・令和3年11月14日に開催を予定していた「おかやまマラソン2021」は、新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止となったが、次年度の開催に向けて準備に取り組んだ。 ・高齢者向けに作成したフレイル予防のパンフレットを、健康づくりボランティアが地域で活用し、身体活動の促進や運動習慣の定着について、普及啓発を図ることができた。
課題	・県民がスポーツ観戦やスポーツ活動をより一層楽しめるよう、イベント等について、より積極的なPR方法や魅力的な企画内容を検討し、新たな取組を図る必要がある。 ・引き続き多くの方に参加していただけるよう積極的な情報発信を行うとともに、更なる改善を重ね、大会の満足度向上を目指す。 ・壮年期、高齢期それぞれの世代にあった運動の種類や習慣の定着に向けた方法をさらに普及啓発していく必要がある。

3 各課における評価

番号	部課名	事務事業の実施内容、成果・課題及び総合評価				
1	スポーツ振興課	事業内容	・トップクラブチームのホームゲームにおける応援イベント「県民応援デー」等を実施するとともに、県民無料招待やスポーツ教室を行い、スポーツ活動に取り組む人たちの拡大や、多くの県民がスポーツに関心を持てるようなきっかけづくりに取り組む。 ・ホームページ「おかやまスポーツナビ」等を通じ、県内のスポーツイベントや運営ボランティア、指導者など、様々な情報を発信する。			
		成果・課題	【成果】 ・「県民応援デー」において、ファンに喜んでもらえるような企画を提供し、各クラブのファン・サポーターの拡大やスポーツに取り組む意欲の向上に努めた。 ・県内5クラブのホームゲームにおいて、合計21試合、延べ約6,000人の県民無料招待を実施し、再び県民がスポーツ観戦を楽しむ機会を提供した。 ・約200名の小学生等を対象としたトップチームによるスポーツ教室を開催し、青少年にトップレベルに触れる機会を提供し、スポーツに取り組むきっかけづくりを行った。 ・ポータルサイト「おかやまスポーツナビ」等を通じ、県内のスポーツイベントや運営ボランティア、指導者情報など、様々な情報を発信に努めた。 【課題】 ・県民がスポーツ観戦やスポーツ活動をより一層楽しめるよう、「県民応援デー」等について、より積極的なPR方法や魅力的な企画内容を検討し、新たな取組を図る必要がある。 ・ポータルサイト「おかやまスポーツナビ」の充実と、県民のニーズにあった情報提供を行うために、関係各所と連携し情報収集に努めるとともに、引き続き、改修等を行う必要がある。			
		評価	2018年度	3		
			2019年度	3		
			2020年度	2		
			2021年度	3		
			2022年度			

2	スポーツ振興課 (おかやまマラソン事務局)	事業内容	・おかやまマラソンについて、大会の開催を通じて、県民の健康と体力の増進、地域の活力向上や一体感の醸成を図るとともに、本県の情報発信や、地域経済の活性化など地域振興にも繋げる。また、スタンプラリーなどの取組を通じて、県内他大会と連携し、県内全体のマラソン大会の盛り上げを図る。				
		成果・課題	【成果】 ・令和3年11月14日に開催を予定していた「おかやまマラソン2021」は、新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止となった。 ・次回大会は感染防止策を万全なものとして開催できるよう、日本陸上競技連盟のガイダンス等に基づく感染防止対策を講じるための各種準備を進めた。 【課題】 ・新型コロナウイルスの感染防止対策を万全なものとして、次回大会の開催を目指すこととするが、引き続き、国内の感染状況や医療現場の逼迫状況を見極めながら準備を進めていく必要がある。	評価	2018年度	4	
					2019年度	4	
					2020年度	2	
					2021年度	2	
					2022年度		

3	健康推進課 (再掲)	事業内容	・「地域・職域保健連携推進協議会」において、関係機関・団体と働き盛り世代の運動定着について協議する。 ・高齢者向けに作成した、フレイル予防のパンフレットを活用し、運動を含めた健康づくりの普及を図る。				
		成果・課題	【成果】 ・高齢者向けに作成したフレイル予防のパンフレットを、健康づくりボランティアが地域で活用し、身体活動の促進や運動習慣の定着について、普及啓発を図ることができた。 【課題】 ・壮年期、高齢期それぞれの世代にあった運動の種類や習慣の定着に向けた方法をさらに普及啓発していく必要がある。	評価	2018年度	3	
					2019年度	3	
					2020年度	3	
					2021年度	3	
					2022年度		

4 総合評価

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
総合評価	3.3	3.3	2.3	2.7	

岡山県スポーツ推進計画（改訂版） 2021年度施策評価シート

1 評価施策名

基本施策	Ⅲ スポーツを通じた活力があり絆の強い地域社会の実現		
施策の方向性	スポーツ参加人口の拡大と地域の活性化		
施策名	2 スポーツを通じた地域活性化	担当課室	環境文化部スポーツ振興課 おかやまマラソン事務局 土木部都市局都市計画課

2 課室施策評価

(1) 推進計画における数値目標

数値目標	指標名	地域スポーツコミッションの数	計画策定時	設定なし				
			中間見直し時	2団体（2017年度）				
			目標値	6団体（2022年度）				
	指標の説明	年間1団体程度の増加を目指す。	実績値	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
				4団体	4団体	4団体	4団体	

(2) 成果及び課題

成果	・おかやまマラソンについては、運営面の改善を図りながら、参加者アンケートでの意見等も参考に更なるランナーサービスの向上にも取り組むなど、開催準備等を進めるとともに、大会開催に向けた広報や、機運醸成イベント等を実施した。また、並行して2021大会の準備を進めた。 ・オリンピックの事前キャンプ誘致については、7か国8チームの事前キャンプが県内で開催され、スポーツコミッション等と協力しながら受け入れを進めた。 ・地域資源を生かした環境スポーツイベントである「岡山 備前 SEA TO SUMMIT2021」については、中止となったが、大勢の参加エントリーがあった。 ・例年開催していた、マスカットスタジアムにおける、プロ野球公式戦1試合、プロ野球ウエスタン・リーグ公式戦1試合等は、新型コロナウイルス感染症の影響により2020年度に続き全て中止となった。
課題	・様々なスポーツイベントへの誘客促進を図るとともに、イベントをどのように地域活性化につなげていくか、方法等を検討し、取り組む必要がある。

3 各課における評価

番号	部課名	事務事業の実施内容、成果・課題及び総合評価				
1	スポーツ振興課	事業内容	・2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催を踏まえ、事前キャンプの誘致活動を積極的に行うため、県内関係団体や各地域での取組状況を把握しながら、「スポーツコミッション」の支援を行う。 ・海、湖、里、山といった地域資源を生かした環境スポーツイベントである「SEA TO SUMMIT」を備前市において開催し、スポーツ活動への参加機会を提供することでスポーツ活動人口の増加を図るとともに、地域の魅力を発信することでイベントへの参加をきっかけとしたスポーツツーリストのリピーター化を促進し、地域の活性化およびスポーツツーリズム推進を図る。			
		成果・課題	【成果】 ・オリンピックの事前キャンプ誘致については、東京オリンピックの開催に合わせて、カナダ男子ホッケーチーム（赤磐市）など7か国9チームの事前キャンプが県内で開催され、スポーツコミッション等と協力しながら受け入れを進めた。 ・「岡山 備前 SEA TO SUMMIT2021」については、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったが、県内から48名、県外から49名の参加エントリーがあった。 【課題】 ・東京オリンピック・パラリンピックにおける県内ゆかりの選手の活躍等により、スポーツに対する興味、関心が高まっており、これが一過性のものとならないような継続的な取り組みが必要である。 ・「SEA TO SUMMIT」を継続的に実施していくために、引き続き、主体となる市町村を継続的に支援する必要がある。			
		評価	2018年度	4		
			2019年度	3		
			2020年度	2		
			2021年度	2		
			2022年度			

2	スポーツ振興課 (マラソン事務局)	事業内容	・岡山市をはじめ関係団体との連携のもとで、中四国最大規模の都市型マラソン大会を開催し、大会の開催を通じて、県民の健康と体力の増進、地域の活力向上や一体感の醸成を図るとともに、本県の情報発信や、地域経済の活性化など地域振興にも繋げる。 ・前回大会での運営面の改善を図りながら、参加者アンケートでの意見等も参考に更なるランナーサービスの向上にも取り組むなど、開催準備等を進める。				
		成果・課題	【成果】 ・令和3年11月14日に開催を予定していた「おかやまマラソン2021」は、新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止となった。 ・次回大会は感染防止策を万全なものとして開催できるよう、日本陸上競技連盟のガイダンス等に基づく感染防止対策を講じるための各種準備を進めた。 【課題】 ・新型コロナウイルスの感染防止対策を万全なものとして、次回大会の開催を目指すこととするが、引き続き、国内の感染状況や医療現場の逼迫状況を見極めながら準備を進めていく必要がある。	評価	2018年度	4	
					2019年度	4	
					2020年度	2	
					2021年度	2	
					2022年度		

3	都市計画課	事業内容	・マスカットスタジアムにプロ野球を誘致するため、「岡山にプロ野球を誘致する会」を中心に誘致活動を行う。 ・プロ野球開催時に球場周辺の賑わいづくりを実施する。				
		成果・課題	【成果】 例年開催していたプロ野球公式戦1試合、プロ野球ウエスタン・リーグ公式戦1試合、オープン戦3試合、楽天の秋季キャンプが新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、2020年度に続き全て中止となった。 【課題】 マスカットスタジアムでのプロ野球開催が2020年度以降は1度も開催が出来ていない状態である。次年度以降は例年並みの規模の試合が開催できるとともに、2試合、3試合と1試合でも開催数を増やすことが出来るよう誘致活動を進めていく。	評価	2018年度	3	
					2019年度	3	
					2020年度	2	
					2021年度	2	
					2022年度		

4 総合評価

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
総合評価	3.7	3.3	2.0	2.0	

岡山県スポーツ推進計画（改訂版） 2021年度施策評価シート

1 評価施策名

基本施策	Ⅲ スポーツを通じた活力があり絆の強い地域社会の実現		
施策の方向性	スポーツ参加人口の拡大と地域の活性化		
施策名	3 東京オリンピック・パラリンピック等の開催を契機とした地域活性化	担当課室	環境文化部スポーツ振興課 保健福祉部障害福祉課 環境文化部文化振興課

2 課室施策評価

(1) 推進計画における数値目標

数値目標	指標名	ナショナルチームキャンプ等誘致件数	計画策定時	設定なし				
			中間見直し時	5件（2016年度）				
	指標の説明	「新晴れの国おかやま生き生きプラン」の「生き生き指標」の考え方（2017～2020年度で20件）の考え方に準じ、年間平均5件としている。	目標値	25件（2018～2022年度の計）				
			実績値	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
				13件	12件	2件	9件	

数値目標	指標名	東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラムの件数	計画策定時	設定なし				
			中間見直し時	—				
	指標の説明	「新晴れの国おかやま生き生きプラン」の目標値（生き生き指標）であった。 ・「第3次晴れの国おかやま生き生きプラン」では、指標から削除されている。	目標値	2,000件（2017～2021年度の計）				
			実績値	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
				618件	981件	1173件	1246件	—

(2) 成果及び課題

成果	・オリンピックの事前キャンプ誘致については、7か国9チームの事前キャンプが県内で開催された。 ・パラリンピックのキャンプ誘致については、パラ・パワーリフティング日本代表選手の強化キャンプを岡山県総合グラウンド陸上競技場ウォーミングアップ室で実施した。 ・聖火リレーの実施については、コロナ感染拡大に伴い、公道でのリレーを中止した。代替措置として、無観客でのトーチキス（聖火の受け渡し）を実施した。コロナ対策を徹底し、関係者から感染者を出すことはなかった。 ・パラリンピックのキャンプ誘致については、パラ・パワーリフティング日本代表選手の強化キャンプを岡山商科大学ウエイトトレーニング場で実施した。 ・東京2020パラリンピック聖火リレー岡山県聖火フェスティバルについては、県と県実行委員会が主催し、全市町村が参加する形で、令和3年8月12日から8月16日にかけて実施した。 ・東京オリンピック・パラリンピックに向け設置した「おかやま文化芸術アソシエイツ」により、県内文化団体等への相談対応や活動支援を行った。また、新型コロナウイルス感染症が長期化し、文化イベントの休止等が余儀なくされる状況ではあるものの一定数の文化プログラム(beyod2020プログラム)について認証・支援を行った。
課題	・東京オリンピック・パラリンピックにおける県内ゆかりの選手の活躍等により、スポーツに対する興味、関心が高まっており、これが一過性のものとならないような継続的な取り組みが必要である。 ・聖火リレーについては、次世代を担う若者や子どもたちへポジティブな影響をレガシーとして拡散、継承していく必要がある。 ・東京パラリンピックを契機に障害者スポーツの振興と障害への理解の一層の促進を図る。 ・おかやま文化芸術アソシエイツにより、県内の文化団体等への相談対応や活動支援を継続して実施する必要がある。 ・東京オリンピック・パラリンピック閉幕に伴い、東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラム(beyod2020プログラム)も令和3年度末で終了しているため、次年度以降に係る本計画の指標とならないことに留意

3 各課における評価

番号	部課名	事務事業の実施内容、成果・課題及び総合評価				
1	スポーツ振興課	事業内容	・スポーツ合宿の誘致については、H28年度に創設したナショナルチーム等のキャンプやトップレベルの大会誘致のための補助制度等を活用し、市町村や県競技団体等と連携を図りながら、駐日大使館や中央の協議団体等への働きかけを強化するなど積極的に誘致活動を行い、一つでも多くのキャンプ誘致の実現をめざす。			
		成果・課題	【成果】 ・オリンピックの事前キャンプ誘致については、東京オリンピックの開催に合わせて、カナダ男子ホッケーチーム(赤磐市)など7か国9チームの事前キャンプが県内で開催された。 ・聖火リレーの実施については、コロナ感染拡大に伴い、実施直前で県内に緊急事態宣言が発出されたことを受け、公道でのリレーを中止した。代替措置として、岡山市及び津山市で無観客でのトーチキス(聖火の受け渡し)を実施した。コロナ対策を徹底し、関係者から感染者を出すことはなかった。 【課題】 ・東京オリンピック・パラリンピックにおける県内ゆかりの選手の活躍等により、スポーツに対する興味、関心が高まっており、これが一過性のものとならないような継続的な取り組みが必要である。 ・聖火リレーについては、オリンピックの競技が開催されない地域でもオリンピックムーブメントを感じられるはずであった。公道でのリレーが中止となった岡山県では、その影響は限定的なものであったものの、次世代を担う若者や子どもたちへポジティブな影響をレガシーとして拡散、継承していく必要がある。	評価	2018年度	4
					2019年度	4
					2020年度	3
					2021年度	4
					2022年度	
2	障害福祉課	事業内容	2020東京パラリンピック競技大会に係るナショナルチーム又は国代表選手が行うキャンプの誘致を促進し、東京パラリンピック開催の効果を本県に波及させ障害者スポーツの振興と障害への理解の一層の促進を図る。			
		成果・課題	【成果】 ・パラ・パワーリフティング日本代表選手の強化キャンプを岡山商科大学ウエイトトレーニング場で実施した。 ・パラリンピック聖火フェスティバルは、県と県実行委員会が主催し、県内全市町村が参加する形で実施した。令和3年8月12日からの期間中、市町村で採火された火を、令和3年8月16日に岡山県総合グラウンド陸上競技場で開催した集火・出立式に持ち寄り、パラスリート(令和3年度パラリンピック育成事業強化指定選手)により集火され、「岡山県の火」として東京へ届けた。 【課題】 ・東京パラリンピックを契機に障害者スポーツの振興と障害への理解の一層の促進を図る。	評価	2018年度	3
					2019年度	3
					2020年度	3
					2021年度	4
					2022年度	
3	文化振興課	事業内容	・東京オリンピック・パラリンピックに向け、「おかやま文化芸術アソシエイツ」を設置し、県内の文化団体等を支援するとともに、市町村、文化関係団体等と連携を図りながら、地域資源を活用した様々な文化イベントを展開し、文化芸術活動の一層の活性化と国内外からの誘客により、地域の活力を醸成する。			
		成果・課題	【成果】 ・東京オリンピック・パラリンピックに向け設置した「おかやま文化芸術アソシエイツ」により、県内文化団体等への相談対応や活動支援を行った。また、新型コロナウイルス感染症が長期化し、文化イベントの休止等が余儀なくされる状況ではあるものの一定数の文化プログラム(beyond2020プログラム)について認証・支援を行った。 ・関係市町村や関係団体等と連携を図りながら、アーティストによる滞在制作をはじめとする様々な文化イベントを実施し、地域の活力醸成を図った。 【課題】 ・「おかやま文化芸術アソシエイツ」により、県内の文化団体等への相談対応や活動支援を継続して実施する必要がある。 ・東京オリンピック・パラリンピック閉幕に伴い、東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラム(beyond2020プログラム)も令和3年度末で終了しているので、次年度以降に係る本計画の指標とならないことに留意	評価	2018年度	3
					2019年度	4
					2020年度	2
					2021年度	2
					2022年度	

4 総合評価

総合評価	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	3.3	3.7	2.7	3.3	

岡山県スポーツ推進計画（改訂版） 2021年度施策評価シート

1 評価施策名

基本施策	Ⅲ スポーツを通じた活力があり絆の強い地域社会の実現		
施策の方向性	スポーツ参加人口の拡大と地域の活性化		
施策名	4 トップクラブチームを核とした地域活性化	担当課室	環境文化部スポーツ振興課

2 課室施策評価

(1) 推進計画における数値目標

数値目標	指標名	トップクラブチームのホームゲームにおける観客動員数	計画策定時	166千人（2011年度シーズン）				
			中間見直し時	248千人（2016年度シーズン）				
	指標の説明	ファジアーノ岡山、岡山シーガルズ、岡山湯郷ベル、吉備国際大学シャトル岡山高梁、岡山リベッツ、トライフーズ岡山のホームゲームにおける観客動員数	目標値	273千人（2022年度シーズン）				
			実績値	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
				211千人	243千人	81千人	111千人	

(2) 成果及び課題

成果	・「県民応援デー」において、ARを活用した各クラブのPR等を実施し、県全体で一体的に応援する気運の醸成を図った。 ・「PRIDE OF 中四国」を実施し、中四国関係県との交流を深めるとともに、岡山の観光情報の発信や、アウェイサポーターに向けた岡山への誘客促進を図った。 ・県内5クラブのホームゲーム等において、県民無料招待および小学生を対象としたスポーツ教室を実施し、県民が再びスポーツ観戦を楽しむ機会を提供するとともに、トップクラブチームと子どもたちとの交流促進を図った。 ・「晴れの国トップアスリート派遣事業」により、小中学校や市町村のイベントにトップクラブチームの選手等のトップアスリートを派遣し、参加者に技術指導を行うなど、「するスポーツ」のきっかけづくりにつなげた。
課題	・コロナ禍における観客動員数の減に対応するため、また、トップクラブチームを取り巻く環境や、新たな時代の流れに応じて、引き続き、各クラブの支援を行う必要がある。 ・「県民応援デー」等について、より積極的なPR方法や魅力的な企画内容を検討し、県民がスポーツ観戦やスポーツ活動をより一層楽しめるよう、新たな取組を考え、地域活性化につなげていく必要がある。

3 各課における評価

番号	部課名	事務事業の実施内容、成果・課題及び総合評価				
1	スポーツ振興課	事業内容	・トップクラブチームのホームゲームにおいて、応援イベント「県民応援デー」等を実施し、スポーツ活動に取り組む人たちがファン・サポーター等の拡大、県全体で応援する気運の醸成を図る。 ・ファジアーノ岡山と中四国のJ2チームとの試合において、「PRIDE OF 中四国」を実施し、関係機関と連携し、岡山の情報発信を広く行うとともに、アウェイサポーターの誘客の促進など県域を超えた交流や観光・物産による地域の活性化を図る。 ・トップクラブチームの選手が学校やスポーツ少年団等に出向き、技術指導や交流を実施するトップアスリート派遣事業を実施し、「するスポーツ」のきっかけづくりを促進する。			
		成果・課題	【成果】 ・「県民応援デー」において、ARを活用した各クラブのPRやオリジナルデニムポーチの配布等を行い、県全体で一体的に応援する気運の醸成を図った。 ・「PRIDE OF 中四国」において、関係県との交流を深めるとともに、岡山の観光情報の発信や、アウェイサポーターに向けた岡山への誘客促進を図った。 ・県内5クラブのホームゲームにおいて、合計21試合、延べ約6,000人の県民無料招待を実施し、再び県民がスポーツ観戦を楽しむ機会を提供した。 ・約200名の小学生等を対象としたトップチームによるスポーツ教室を開催し、子どもたちにトップレベルに触れる機会を提供するとともに、トップクラブチームと子どもたちとの交流促進を図った。 ・小中学校や市町村のイベントにトップクラブチームの選手を含めトップアスリートを計131回派遣し、参加者に技術指導を行うなど、トップアスリートとの交流の機会の提供を推進し、「するスポーツ」のきっかけづくりにつなげた。 【課題】 ・コロナ禍においても、安心して各クラブのホームゲームに会場してもらえよう、感染防止策を徹底したうえで、より一層、スポーツ観戦やスポーツ活動を楽しんでもらう新たな取組が必要である。 ・トップクラブチームを取り巻く環境や、新たな時代の流れに応じて、各クラブの支援を行う必要がある。 ・「県民応援デー」等について、より積極的なPR方法や魅力的な企画内容を検討していく必要がある。	評価	2018年度	3
					2019年度	3
					2020年度	2
					2021年度	2
					2022年度	

4 総合評価

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
総合評価	3.0	3.0	2.0	2.0	

岡山県スポーツ推進計画（改訂版） 2021年度施策評価シート

1 評価施策名

基本施策	IV スポーツ環境の整備		
施策の方向性	スポーツの基盤となる「人」「場」の環境整備		
施策名	1 指導者・ボランティアなど多様な人材の育成、活躍の場	担当課室	環境文化部スポーツ振興課 おかやまマラソン事務局

2 課室施策評価

(1) 推進計画における数値目標

数値目標	指標名	設定なし	計画策定時	
			中間見直し時	
	指標の説明		目標値	
			実績値	

(2) 成果及び課題

成果	- 総合型地域スポーツクラブと市町村等との調整を行うなど、広域スポーツセンターの活動を支援した。 - スポーツ推進委員協議会における情報交換や研修活動を通じて、市町村でのスポーツ活動の活性化を促進した。 - 令和3年11月14日に開催を予定していた「おかやまマラソン2021」は、新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止とした。
課題	- スポーツリーダーの新規登録者数の増加を促進するとともに、既登録者について、既存事業と連動を図りながら活動の場の提供につなげていく必要がある。 - おかやまマラソンのみならず、より幅広くスポーツボランティアについて周知するため、より効果的なPR手法を検討する必要がある。

3 各課における評価

番号	部課名	事務事業の実施内容、成果・課題及び総合評価						
1	スポーツ振興課	事業内容	・スポーツやレクリエーション活動の指導者について、ポータルサイト「おかやまスポーツナビ」への登録を促進し、指導者等の情報を提供する。 ・総合型地域スポーツクラブを支援する広域スポーツセンターの活動充実を図る。 ・スポーツ推進委員の活動を活性化し、地域スポーツの推進を図る。			評価	2018年度	3
							2019年度	3
		成果・課題	【成果】 ・総合型地域スポーツクラブと市町村等との調整を行うなど、広域スポーツセンターの活動を支援した。 ・スポーツ推進委員協議会における情報交換や研修活動を通じて、市町村でのスポーツ活動の活性化を促進した。 【課題】 ・地域スポーツの推進のため、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ推進委員協議会の連携を促進する必要がある。 ・スポーツリーダーの新規登録者数の増加を促進、活躍の場の拡大のため、県スポーツ協会や競技団体等と連携し、情報収集に努めるとともに、効果的なPR方法等を検討する必要がある。	2020年度	3			
				2021年度	3			
				2022年度				
2	スポーツ振興課 (マラソン事務局)	事業内容	・おかやまマラソンにおいて、県民が一体となって「支える」大会となるよう、大会運営を支えるボランティアを個人はもとより、企業、地域団体、学校等から広く募集する。			評価	2018年度	4
							2019年度	4
		成果・課題	【成果】 ・令和3年11月14日に開催を予定していた「おかやまマラソン2021」は、新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止となった。 【課題】 ・新型コロナウイルスの感染防止対策を万全なものとして、次回大会の開催を目指すこととするが、引き続き、国内の感染状況や医療現場の逼迫状況を見極めながら準備を進めていく必要がある。 ・次回大会では、ボランティアとして参加していただく方に対して、マスクや使い捨て手袋等を配布するほか、オペレーションの簡素化による活動人数の削減等、安心して活動していただける環境を整えることとする。	2020年度	2			
				2021年度	2			
				2022年度				

4 総合評価

総合評価	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	3.5	3.5	2.5	2.5	

岡山県スポーツ推進計画（改訂版） 2021年度施策評価シート

1 評価施策名

基本施策	IV スポーツ環境の整備			
施策の方向性	スポーツの基盤となる「人」「場」の環境整備			
施策名	2 スポーツ施設の機能の充実と活用の促進	担当課室	環境文化部スポーツ振興課 土木部都市計画課 保健福祉部健康推進課 教育庁保健体育課	

2 課室施策評価

(1) 推進計画における数値目標

数値目標	指標名	県営スポーツ施設利用者数	計画策定時	1,575千人（2011年度）				
			中間見直し時	1,990千人（2016年度）				
	指標の説明	シティライトスタジアム、ジップアリーナ岡山、岡山武道館、津山総合体育館・津山東体育館、美作ラグビー・サッカー場、備前テニスセンター、津山陸上競技場、笠岡陸上競技場の利用者数。2016年度はインターハイがあったため、2015年度（1,754千人）を基準に、1割程度の増を目指す。	目標値	1,930千人（2022年度）				
			実績値	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
				1,735千人	1,623千人	775千人	492千人	

数値目標	指標名	学校体育施設の開放率	計画策定時	屋外運動場83%、体育館89%、武道場58%（いずれも2010年度）				
			中間見直し時	屋外運動場78%、体育館89%、武道場59%（いずれも2015年度）				
	指標の説明	・全国平均を上回っており、中間見直し時においても計画策定時と同程度であることから、目標値は同じ率とする。	目標値	屋外運動場85%、体育館91%、武道場60%（いずれも2021年度）				
			実績値	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
			屋外運動場	78%	75%	-	R5年 4月頃 公表予定	
			体育館	90%	89%	-		
			武道場	59%	61%	-		

(2) 成果及び課題

成果	・津山陸上競技場の消化配管の漏水修繕工事をはじめ、各施設の修繕等を行った。 ・コロナ禍での施設の休館や利用制限を行った影響等により利用者数は回復していないものの、各指定管理者において消毒や換気の実施など感染症防止策に努め、スポーツ施設の活用を促進した。 ・包括協定に基づく安全管理計画による施設管理を行い、事故防止や事故発生時の体制の整備に努めるとともに、法定12条点検を実施し、施設の適正な管理運営のための情報提供を行った。
課題	・スポーツ施設について、さらなる利便性の向上に資するような情報提供の手法を検討する必要がある。また、感染症対策をはじめとした、利用者の安全安心に繋がる取組を強化する必要がある。 ・各施設の老朽化が進み、今後施設・設備の改修費用が嵩んでくることから、個別施設計画に基づき、計画的な改修等により長寿命化を図っていく必要がある。中でも利用者の安全に関わる設備等については速やかに実行する必要がある。

3 各課における評価

番号	部課名	事務事業の実施内容、成果・課題及び総合評価				
1	スポーツ振興課	事業内容	・計画的に改修等を行い、施設の長寿命化等を図るための個別施設計画を策定するとともに、その実行に取り組む。 ・指定管理者と連携しながら、積極的な利用者サービスの向上に向けた取組を行い、安全で適切な施設管理に努める。 ・スポーツ施設等の情報提供等に取り組み、利用者の増加や活用促進を図る。 ・県内スポーツ施設の設置者や管理者を対象に、施設・設備の点検や管理体制等の適切で具体的な知識についての情報提供を行う。			
		成果・課題	【成果】 ・津山陸上競技場の消化配管の漏水修繕工事をはじめ、各施設の修繕等を行った。 ・岡山武道館については、練習道場の建替工事及び主道場の第Ⅰ期改修工事が完成し、第Ⅱ期改修工事に向けて具体的な設計を行った。（工事は令和5年1月完成予定。） ・県有施設について、建築物及び設備の法定12条点検を実施し、指定管理者に対して施設の適正な管理運営のための情報提供を行った。 ・指定管理者と連携し、利用サービスの向上など施設管理を行った。 ・ホームページを活用した施設情報の提供を行い、スポーツ施設の活用を促進した。 ・県内スポーツ施設の設置者や管理者を対象に施設・設備の点検等についての情報提供を行った。 【課題】 ・施設管理者と連携しながら、施設の修繕や長寿命化等を計画的に実行する必要があるものの、必要な予算の確保等に課題がある中、利用者及び職員の安全確保のため、防火避難上重要な設備については修繕等を速やかに実行する必要がある ・利用者サービスの向上を図り、利用者数の増加に取り組む必要がある。 ・新型コロナウイルスの感染症の拡大により利用者が大きく減少した。今後は、感染症への対策を実施しながら、利用者の利便性の向上や施設の活用の促進を推進していく必要がある。 ・環境負荷低減への社会的なニーズを踏まえ、個別施設計画に盛り込んだ照明設備のLED化等の計画的な実施に加え、太陽光パネル設置の検討など県有施設の省エネ化に取り組む必要がある。 ・令和4年度から、県有施設の法定12条点検は指定管理者が実施するため、確実に実施するよう周知及び指導していく必要がある。	評価	2018年度	3
					2019年度	3
					2020年度	2
					2021年度	2
					2022年度	
2	都市計画課	事業内容	・長寿命化計画に基づき、施設機能の維持充実のため必要な改修整備を実施する。 ・指定管理者は利用者のニーズにあった自主事業を実施する。 ・指定管理者は安全管理計画を策定し、これに基づき施設管理を実施する。 ・指定管理者は包括協定に基づき、アンケートを実施するなど利用者のニーズを把握し、ニーズにあった運営を実施する。			
		成果・課題	【成果】 ・大型映像設備更新工事、プール改修工事、外周園路舗装改修工事を行った。 ・自主事業として子どもたちが楽しめるイベント実施やSNSを活用した情報提供をするなど、施設の利用拡大を行った。 ・安全管理計画に基づき施設管理を行った。 ・指定管理者と連携をしながら、利用者からのアンケートを実施するなどサービス向上を行った。 【課題】 ・新型コロナウイルスの感染症の拡大により昨年度に引き続き利用者が大きく減少している。感染症への対策を実施しながら、利用者の利便性の向上や施設の活用の促進を推進していく必要がある。	評価	2018年度	3
					2019年度	3
					2020年度	2
					2021年度	2
					2022年度	

3	健康推進課	事業内容	岡山県南部健康づくりセンターの利用促進				
		成果・課題	【成果】 ・岡山県南部健康づくりセンターについて、指定管理者と連携し、利用者の利便性の向上などに取り組んだ。 ・施設機能の維持充実のため、プール設備の修繕等必要な改修整備を行った。 【課題】 ・利用者の利便性向上のため、さらなる取り組みが必要である。 ・施設機能の維持充実のため、必要な改修整備に取り組む。	評価	2018年度	3	
					2019年度	3	
					2020年度	2	
					2021年度	2	
					2022年度		
4	保健体育課 (再掲)	事業内容	・地域におけるスポーツ活動の拠点として学校開放事業を推進するため、県教育庁保健体育課ホームページに掲載し、周知している。				
		成果・課題	【成果】 ・公立学校の体育施設の開放率は国の平均を上回っている。 H28年度開放状況 屋外運動場78%(75%)、体育館90%(82%)、武道場59%(41%) H30年度開放状況 屋外運動場75%(73%)、体育館89%(86%)、武道場61%(41%) ※()は全国平均 ※H30実績 学校体育施設設置等状況調査(R1.5月時点) 【課題】 ・公立学校の体育施設の開放率は、全国平均を上回っているものの、さらに多くの県民が活用できるように市町村教委や県立学校に対して、ホームページを活用するなどして周知する。	評価	2018年度	3	
					2019年度	3	
					2020年度	3	
					2021年度	3	
					2022年度		

4 総合評価

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
総合評価	3.0	3.0	2.3	2.3	

岡山県スポーツ推進計画（改訂版） 2021年度施策評価シート

1 評価施策名

基本施策	Ⅳ スポーツ環境の整備			
施策の方向性	スポーツの基盤となる「人」「場」の環境整備			
施策名	3 情報発信と表彰制度	担当課室	環境文化部スポーツ振興課	

2 課室施策評価

(1) 推進計画における数値目標

数値目標	指標名	スポーツ情報ウェブサイト「おかやまスポーツナビ」のアクセス数	計画策定時	設定なし				
			中間見直し時	21,689件（2016年度）				
	指標の説明	現状(2016年度)の倍増を目指す。	目標値	40,000件（2022年度）				
			実績値	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
				20,534	26,531	19,872	45,474	

(2) 成果及び課題

成果	- 多くの県民が気軽に運動やスポーツに参加できるよう、運動・スポーツの体験教室やクラブ・サークル情報、県内スポーツイベント情報等の発信と、内容の改修に努めた。 2020年度も多くのアスリートが各種大会で活躍した。岡山県トップアスリート賞は個人20・団体4、岡山県生涯スポーツ功労者表彰は個人2を表彰した。
課題	ポータルサイト「おかやまスポーツナビ」をより活用していただけるよう、利用者のニーズに合った内容や最新情報の提供ができるよう改修に努め、県民が手軽に利用できるよう、広報を工夫していく必要がある。

3 各課における評価

番号	部課名	事務事業の実施内容、成果・課題及び総合評価						
1	スポーツ振興課	事業内容	・多くの県民が気軽に運動やスポーツに参加できるよう、その「場所探し・活動探し」をサポートし、スポーツ活動の場と指導者とのマッチングを図り、スポーツ活動に取り組む人の増加につなげる。 (ポータルサイト「おかやまスポーツナビ」の運営)					
			・国際大会や全国大会において、優秀な成績を収めた個人又は団体及び優秀な指導者を顕彰し、本県スポーツの振興に資する。(スポーツ特別顕賞、トップアスリート賞、スポーツマスターズ賞、生涯スポーツ功労者表彰)					
		成果・課題	【成果】 ・ポータルサイト「おかやまスポーツナビ」や県ホームページへのスポーツ施設等の掲載を通じて、利用者の利便性の向上やスポーツ施設の活用の促進を継続的に試みているが、コロナ禍の影響もあり、利用者が減少傾向にあり、十分な成果を上げるには至っていない。 ・オリンピック開催年となった2021年であったこともあり、岡山県トップアスリート賞は個人73・団体9、岡山県生涯スポーツ功労者表彰は個人3・団体1を表彰した。 ・コロナ禍ではあったが、昨年度よりも各種大会が開催され、多くのアスリートが活躍してくれた。	評価	2018年度	3		
					2019年度	4		
					2020年度	3		
					2021年度	3		
	2022年度							

4 総合評価

総合評価	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	3.0	4.0	3.0	3.0	



第3期スポーツ基本計画（概要）

【第2期計画期間中の総括】

- ① 新型コロナウイルス感染症：
- ▶ 感染拡大により、スポーツ活動が制限
- ② 東京オリンピック・パラリンピック競技大会：
- ▶ 1年延期後、原則無観客の中で開催
- ③ その他社会状況の変化：
- ▶ 人口減少・高齢化の進行
 - ▶ 地域間格差の広がり
 - ▶ DXなど急速な技術革新
 - ▶ ライフスタイルの変化
 - ▶ 持続可能な社会や共生社会への移行
- こうした出来事等を通じて、改めて確認された
- ・「楽しさ」「喜び」「自発性」に基づき行われる本質的な『スポーツそのものが有する価値』（Well-being）
 - ・スポーツを通じた地域活性化、健康増進による健康長寿社会の実現、経済発展、国際理解の促進など『スポーツが社会活性化等に寄与する価値』
- を更に高めるべく、第3期計画では次に掲げる施策を展開

1. 東京オリ・パラ大会のスポーツ・レガシーの継承・発展に資する重点施策



持続可能な国際競技力の向上

- 東京大会の成果を一過性のものとせず、持続可能な国際競技力を向上させるため、
 - ・NFの強化戦略ブランドの実効化を支援
 - ・アスリート育成パスウェイを構築
 - ・スポーツ医・科学、情報等による支援を充実
 - ・地域の競技力向上を支える体制を構築



大規模大会の運営ノウハウの継承

- 新型コロナウイルス感染症の影響下という困難な状況の下で、東京大会を実施したノウハウを、スポーツにおけるホスピタリティの向上に向けた取組も含め今後の大規模な国際競技大会の開催運営に継承・活用



共生社会の実現や多様な主体によるスポーツ参画の促進

- 東京大会による共生社会への理解・関心の高まりと、スポーツの機運向上を契機としたスポーツ参画を促進
- オリパラ教育の知見を活かしたアスリートとの交流活動等を推進



地方創生・まちづくり

- 東京大会による地域住民等のスポーツへの関心の高まりを地方創生・まちづくりの取組に活かし、将来にわたって継続・定着
- 国立競技場等スポーツ施設における地域のまちづくりと調和した取組を推進



スポーツを通じた国際交流・協力

- 東京大会に向けて、世界中の人々にスポーツの価値を届けたスポーツ・フォー・トゥモロー（SFT）事業で培われた官民ネットワークを活用し、更なる国際協力を展開、スポーツSDGsにも貢献（ドーピング防止活動に係る人材・ネットワークの活用等）



スポーツに関わる者の心身の安全・安心確保

- 東京大会でも課題となったアスリート等の心身の安全・安心を脅かす事態に対応するため、
 - ・誹謗中傷や性的ハラスメントの防止
 - ・熱中症対策の徹底など安全・安心の確保
 - ・暴力根絶に向けた相談窓口の一層の周知・活用

2. スポーツの価値を高めるための第3期計画の新たな「3つの視点」を支える施策

スポーツを「つくる／はぐくむ」

社会の変化や状況に応じて、既存の仕組みにとらわれずに柔軟に見直し、最適な手法・ルールを考えて作り出す。

- ◆ 柔軟・適切な手法や仕組みの導入等を通じた、多様な主体が参加できるスポーツの機会創出
- ◆ スポーツに取り組む者の自主性・自律性を促す指導ができる質の高いスポーツ指導者の育成
- ◆ デジタル技術を活用した新たなスポーツ機会や、新たなビジネスモデルの創出などDXを推進

スポーツで「あつまり、ともに、つながる」

様々な立場・背景・特性を有した人・組織があつまり、ともに課題に対応し、つながりを感じてスポーツを行う。

- ◆ 施設・設備整備、プログラム提供、啓発活動により誰もが一緒にスポーツの価値を享受できる、スポーツを通じた共生社会の実現
- ◆ スポーツ団体のガバナンス・経営力強化、関係団体等の連携・協力による我が国のスポーツ体制の強化
- ◆ スポーツ分野の国際協力や魅力の発信

スポーツに「誰もがアクセスできる」

性別や年齢、障害、経済・地域事情等の違い等によって、スポーツの取組に差が生じない社会を実現し、機運を醸成。

- ◆ 住民誰もが気軽にスポーツに親しめる「場づくり」等の機会の提供
- ◆ 居住地域にかかわらず、全国のアスリートがスポーツ医・科学等の支援を受けられるよう地域機関の連携強化
- ◆ 本人が望まない理由でスポーツを途中で諦めることがない継続的なアクセスの確保

3. 今後5年間に総合的かつ計画的に取り組む12の施策

① 多様な主体におけるスポーツの機会創出

地域や学校における子供・若者のスポーツ機会の充実と体力向上、体育の授業の充実、運動施設開放の推進、女性・障害者・働く世代・子育て世代のスポーツ実施率の向上 等

④ スポーツの国際交流・協力

国際スポーツ界への意思決定への参画支援、スポーツ産業の国際展開を促進するプラットフォームの検討 等

⑦ スポーツによる地方創生、まちづくり

武道やアウトドアスポーツ等のスポーツツーリズムの更なる推進など、スポーツによる地方創生、まちづくりの創出の全国での加速化 等

⑩ スポーツ推進のためのハード、ソフト、人材

民間・大学も含めた地域スポーツ施設の有効活用、地域スポーツコミッションなど地域連携組織の活用、全NＦでの人材育成及び活用に関する計画策定を促進、女性のスポーツ指導に精通した指導者養成支援 等

② スポーツ界におけるDXの推進

先進技術を活用したスポーツ実施のあり方の拡大、デジタル技術を活用した新たなビジネスモデルの創出 等

⑤ スポーツによる健康増進

健康増進に資するスポーツに関する研究の充実・調査研究成果の利用促進、医療・介護や企業・保険者との連携強化 等

⑧ スポーツを通じた共生社会の実現

障害者や女性のスポーツの実施環境の整備、国内外のスポーツ団体の女性役員候補者の登用・育成の支援、意識啓発・情報発信 等

⑪ スポーツを実施する者の安全・安心の確保

暴力や不適切な指導等の根絶に向けた指導者養成・研修の実施、スポーツ安全に係る情報発信・安全対策の促進 等

③ 国際競技力の向上

中長期の強化戦略に基づく競技力向上支援システムの確立、地域における競技力向上を支える体制の構築、国・JPO・地方公共団体が一体となった国民体育大会の開催 等

⑥ スポーツの成長産業化

スタジアム・アリーナ整備の着実な推進、他産業とのオープンイノベーションによる新ビジネスモデルの創出支援 等

⑨ スポーツ団体のガバナンス改革・経営力強化

ガバナンス・コンプライアンスに関する研修等の実施、スポーツ団体の戦略的経営を行う人材の雇用創出を支援 等

⑫ スポーツ・インテグリティの確保

スポーツ団体へのガバナンスコードの普及促進、スポーツ仲裁・調停制度の理解増進等の推進、教育研修や研究活動等を通じたドーピング防止活動の展開 等

『感動していただけるスポーツ界』の実現に向けた目標設定

全ての人が自発的にスポーツに取り組むことで自己実現を図り、スポーツの力で、前向きで活力ある社会と、絆の強い社会を目指す

国民のスポーツ実施率を向上

- ✓ 成人の週1回以上のスポーツ実施率を70%（障害者は40%）
- ✓ 1年に一度以上スポーツを実施する成人の割合を100%に近づける（障害者は70%を目指す）

生涯にわたって運動・スポーツを継続したい子供の増加

（児童86%⇒90%、生徒82%⇒90%）

子供の体力の向上

（新体力テストの総合評価C以上の児童68%⇒80%、生徒75%⇒85%）

誰もがスポーツに参画でき、共に活動できる社会を実現

- ✓ 体育授業への参加を希望する障害のある児童生徒の見学ゼロを目指す学習プログラム開発
- ✓ スポーツ団体の女性理事の役割を40%

オリンピック・パラリンピック等の国際競技大会で、過去最高水準の金メダル数、総メダル数、入賞者数、メダル獲得競技数等の実現

- ✓ スポーツ市場規模15兆円の達成（2025年まで）
- ✓ スポーツ・健康まちづくりに取り組む地方公共団体の割合15.6%⇒40%

スポーツを通じて活力ある社会を実現

- ✓ ポストSFT事業を通じて世界中の国々の700万人の人々への裨益を目標に事業を推進
- ✓ 国際競技連盟（IF）等役員数37人規模の維持・拡大

スポーツを通じて世界とつながる

第2期スポーツ基本計画（国）
H29(2017)～R3(2021)

- 1 スポーツで「人生」が変わる！
- 2 スポーツで「社会」を変える！
- 3 スポーツで「世界」とつながる！
- 4 スポーツで「未来」を創る！

5年間で取り組む施策

1 スポーツを「する」「みる」「ささえる」スポーツ参画人口の拡大と、そのための人材育成・場の充実

- (1)スポーツ参画人口の拡大
 - ①若年期から高齢期までのライフステージに応じたスポーツ活動の推進
 - ②学校体育をはじめ子供のスポーツ機会の充実による運動習慣の確立と体力の向上
 - ③ビジネスパーソン、女性、障害者のスポーツ実施率の向上と、これまでスポーツに関わってこなかった人へのはたらきかけ
- (2)スポーツ環境の基盤となる「人材」と「場」の充実
 - ①スポーツに関わる多様な人材の育成と活躍の場の確保
 - ②総合型地域スポーツクラブの質的充実
 - ③スポーツ施設やオープンスペース等のスポーツに親しむ場の確保
 - ④大学スポーツの振興

2 スポーツを通じた活力があり絆の強い社会の実現

- (1)スポーツを通じた共生社会等の実現
 - ①障害者スポーツの振興等
 - ②スポーツを通じた健康増進
 - ③スポーツを通じた女性の活躍促進
- (2)スポーツを通じた経済・地域の活性化
 - ①スポーツの成長産業化
 - ②スポーツを通じた地域活性化
- (3)スポーツを通じた国際社会の調和ある発展への貢献

3 国際競技力の向上に向けた強力な持続可能な人材育成や環境整備

- ①中長期の強化戦略に基づく競技力強化を支援するシステムの確立
- ②次世代アスリートを発掘・育成する戦略的な体制等の構築
- ③スポーツ医・科学、技術開発、情報等による多面的で高度な支援の充実
- ④トップアスリート等のニーズに対応できる拠点の充実

4 クリーンでフェアなスポーツの推進によるスポーツの価値の向上

- ①コンプライアンスの徹底、スポーツ団体のガバナンスの強化及びスポーツ仲裁等の推進
- ②ドーピング防止活動の推進

第3期スポーツ基本計画（国）
R4(2022)～R8（2026）

- 1 スポーツで「人生」が変わる！
- 2 スポーツで「社会」を変える！
- 3 スポーツで「世界」とつながる！
- 4 スポーツで「未来」を創る！
+（新たな3つの視点）
- 1 スポーツを「つくる／はぐくむ」
- 2 「あつまり」、スポーツを「ともに」行い、「つながり」を感じる
- 3 スポーツに「誰もがアクセス」できる

1 東京大会のスポーツレガシーの継承・発展に資する重点施策

- (1)持続可能な国際競技力の向上 3(3)
- (2)大規模大会の運営ノウハウの継承 3(4)
- (3)共生社会の実現や多様な主体によるスポーツ参画の促進 3(1),(5),(8),(10)
- (4)地方創生・まちづくり 3(7)
- (5)スポーツを通じた国際交流・協力 3(4)
- (6)スポーツに関わる者の心身の安全・安心確保（スポーツを「する」視点） 3(11)
- （スポーツを「みる」「ささえる」視点） 3(7),(10)

2 「新たな3つの視点」を支える具体的な施策

- 1 スポーツを「つくる／はぐくむ」
 - (1)多様な主体が参画できるスポーツの機会創出 3(1)
 - (2)自主性・自律性を養う指導ができるスポーツ指導者の育成 3(10)
 - (3)スポーツ界におけるDXの導入 3(2)

2 「あつまり」、スポーツを「ともに」行い、「つながり」を感じる

- (1)スポーツを通じた共生社会の実現 3(8)
- (2)スポーツ団体のガバナンス・経営力強化、関係団体等の連携・協力を通じた我が国のスポーツ体制の強化 3(1),(5),(7),(9)
- (3)スポーツを通じた国際交流・協力 3(4)

3 スポーツに「誰もがアクセス」できる

- (1)地域において、住民の誰もが気軽にスポーツに親しめる「場づくり」等の機会の提供 3(2),(10)
- (2)アスリート育成パスウェイの構築及びスポーツ医・科学、情報等による支援の充実 3(3)
- (3)本人が望まない理由でスポーツを途中で諦めることがないような継続的なアクセス 3(11)

3 5年間で取り組む施策

(1)多様な主体におけるスポーツの機会創出

- ①広く国民一般に向けたスポーツを実施する機会の創出
- ②学校や地域における子供・若者のスポーツ機会の充実と体力の向上
 - a 運動部活動改革の推進と地域における子供・若者のスポーツ機会の充実
 - b 子供・若者の日常的な運動習慣の確立と体力の向上
- ③女性、障害者、働く世代・子育て世代のスポーツ実施率の向上

④大学スポーツ振興

(2)スポーツ界におけるDXの推進

- ①先進技術・ビッグデータを活用したスポーツ実施の在り方の拡大
- ②デジタル技術を活用した新たなビジネスモデルの創出

(3)国際競技力の向上

- ①中長期の強化戦略に基づく競技力向上を支援するシステムの確立
- ②アスリート育成パスウェイの構築
- ③スポーツ医・科学、情報等による多面的で高度な支援の充実
- ④地域における競技力向上を支える体制の構築

(4)スポーツの国際交流・国際貢献

- ①国際スポーツ界への意思決定への参画
- ②スポーツ産業の国際展開
- ③スポーツを通じた国際交流・協力の促進
- ④国際競技大会の招致・開催に対する支援
- ⑤オリ・パラ教育の知見・経験等をいかした教育活動の展開

(5)スポーツによる健康増進

- ①健康増進に資するスポーツに関する研究の充実・調査研究成果の利用促進
- ②医療・介護、民間事業者・保険者との連携を含む、スポーツによる健康増進の促進

(6)スポーツの成長産業化

(7)スポーツによる地方創生、まちづくり

- ①スポーツによる地方創生、まちづくり

- ②周辺地域の整備と調和のとれた国立スポーツ施設の民間事業化の推進

(8)スポーツを通じた共生社会の実現

- ①障害者スポーツの推進
- ②スポーツを通じた女性の活躍促進

(9)担い手となるスポーツ団体のガバナンス改革・経営力強化

- (10)スポーツの推進に不可欠な「ハード」「ソフト」「人材」
 - ①地域において、住民の誰もが気軽にスポーツに親しめる「場づくり」の実現

②地域のスポーツ環境の構築

- ③スポーツに関わる人材の育成と活躍の場の確保
 - a 人材育成及び活用に関する方針・計画の策定
 - b アスリートのキャリア形成
 - c スポーツ指導者の育成
 - d 専門スタッフ、スポーツボランティア等
 - e スポーツ推進委員の有効活用

(11)スポーツを実施する者の安全・安心の確保

- ①スポーツ指導における暴力・虐待等の根絶
- ②アスリートに対する誹謗中傷・写真や動画による性的ハラスメントの防止

③スポーツ事故・スポーツ障害の防止

(12)スポーツ・インテグリティの確保

- ①スポーツ団体のガバナンス強化・コンプライアンスの徹底
- ②紛争解決制度の整備
- ③ドーピング防止活動の推進
 - a 検査態勢の整備
 - b 国際的なドーピング防止活動
 - c 教育研修活動
 - d 研究活動